

人材育成事業

1. 人材育成事業の概要

1.1 初任者向け災害廃棄物処理説明会

初任者向け災害廃棄物処理説明会を開催した。開催概要は次のとおりである。

図表 5-1 初任者向け災害廃棄物処理説明会の開催概要

開催日時、場所、 参加者数	プログラム
令和7年5月20(火) 13:30~17:00 AP大阪茶屋町I+Jルーム (オンライン同時配信) 参加者数: 119名 ・集合参加: 16名 ・オンライン参加: 103名 ※対象: 近畿ブロックの市 町村等初任者	◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎 ◇講演1 「災害廃棄物処理の概要」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 林篤嗣 ◇講演2 「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 係員 高垣遼涼 ◇講演3 「災害時の情報伝達の目的と必要性」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 災害廃棄物対策専門員 奥田信一 ◇講演4 「令和6年能登半島地震による災害廃棄物処理について」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 廃棄物対策等調査官 奥田孝史 ◇講演5 「災害廃棄物処理に係る補助金制度について」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 井上昭男

1.2 課題別研修会

能登半島地震の状況や自治体としての対応、大規模災害における民間事業者の対応をテーマとして、自治体職員向けの課題別研修会を2回開催した。

また、近畿ブロック内の人材バンク登録者や自治体職員向けの課題研修会として、災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）の説明や派遣経験者による支援経験を紹介する講演を行う研修会を1回開催した。

開催概要は次のとおりである。

図表 5-2 災害廃棄物処理担当者向け研修会の開催概要

開催日時、場所、参加者数	プログラム
<p>令和7年8月21日(木) 13:30~16:20</p> <p>AP 大阪茶屋町 A ルーム (オンライン同時配信)</p> <p>参加者数：66名 ・集合参加：12名 ・オンライン参加：54名 ※対象：近畿ブロックの市町村等職員</p>	<p>【自治体職員向けの課題別研修会】</p> <p>◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎</p> <p>◇講演1 「令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨災害への対応事例」 能登町住民課 課長補佐兼務災害廃棄物対策室室長 南山寛幸</p> <p>◇講演2 「近年の大規模災害における民間事業者の対応事例」 株式会社レックスホールディングス 代表取締役社長兼 CEO 田中靖訓</p>
<p>令和7年12月4日(木) 13:45~16:30</p> <p>AP 大阪梅田東 M ルーム</p> <p>参加者数：54名 ・集合参加：9名 ・オンライン参加：45名 ※対象：災害廃棄物処理支援員登録者及び近畿ブロックの市町村等職員</p>	<p>【災害廃棄物処理支援員登録者及び災害廃棄物処理担当者向け研修会】</p> <p>◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎</p> <p>◇説明1 「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）について」 近畿地方環境事務所 資源循環課 廃棄物対策等調査官 奥田孝史</p> <p>◇説明2 「近畿ブロックにおける人材バンク登録状況について」 近畿地方環境事務所 資源循環課 係員 高垣遼涼</p> <p>◇講演1 「被災地における収集運搬支援について」 仙台市環境局 脱炭素都市推進部 先行地域推進室 総括主任 菅澤拓哉</p> <p>◇講演2 「災害廃棄物処理支援と受援体制について」 熊本市政策局 危機管理防災部 危機管理課 技術参事 竹本啓助</p>

開催日時、場所、 参加者数	プログラム
<p>令和7年12月19日(金) 14:00~16:30 AP 大阪駅前 A ルーム</p> <p>参加者数：49名 ・集合参加：5名 ・オンライン参加：44名 ※対象：近畿ブロックの市 町村等職員</p>	<p>【災害廃棄物処理担当者向け研修会】</p> <p>◇主催者あいさつ 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根正慎</p> <p>◇講演1 「令和6年能登半島地震における災害廃棄物処理対応について」 石川県 生活環境部 資源循環推進課 課参事 田丸 昌成</p> <p>◇講演2 「大規模災害における災害廃棄物の処理について」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 林篤嗣</p>

参考) 近畿地方環境事務所セミナー等一覧 (過年度)

年度	区分	セミナー等表題・講師
令和6	初任者向け災害廃棄物処理説明会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林篤嗣
		「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 調査官 奥田孝史
		「災害廃棄物処理現場の実態」 近畿地方環境事務所資源循環課 専門員 若林完明
		「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林篤嗣
	自治体職員災害廃棄物処理担当者向け研修会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「能登半島地震の現状とし尿処理に関する課題と対策」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 林篤嗣
		「熱海市伊豆山土石流災害と能登半島地震から学ぶ公費解体制度について」 熱海市 市民生活部協働環境課環境センター 主査 野口真道
	近畿ブロック内人材バンク登録者向けの課題研修会第1回	「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）の紹介」 環境省近畿地方環境事務所
		能登半島地震の支援経験の紹介 「東大阪市の支援内容のご紹介」 東大阪市 「京都市の支援内容のご紹介」 京都市
		ワークショップによる意見交換
	近畿ブロック内人材バンク登録者向けの課題研修会第2回	「災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）の紹介」 環境省近畿地方環境事務所
		能登半島地震の支援経験の紹介 「兵庫県の支援内容のご紹介」 兵庫県
		ワークショップによる意見交換
	令和5	初任者向け災害廃棄物処理説明会
「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林篤嗣		
「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 調査官 奥田孝史		
「能登半島地震による災害廃棄物処理の実態」 近畿地方環境事務所資源循環課 専門員 若林完明		
「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林篤嗣		
災害廃棄物処理担当者向け勉強会		主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物仮置場の選定（その考え方と実際）」 公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 研究参与 高田光康
		「近年発生した災害における仮置場の設置・運営状況」 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課調査官 奥田孝史 係員 磯野祐輔
令和4	初任者向け災害廃棄物処理説明会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林 篤嗣
		「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 磯野 祐輔

年度	区分	セミナー等表題・講師
令和 3	中小規模市町村を 対象とした研修	「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 首席廃棄物対策等調査官 井上 昭男
		主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎 「災害時におけるトイレ・し尿処理対策」 大正大学 地域創生学部 地域創生学科 教授 岡山 朋子 「災害時のし尿処理施設の対応に係る課題と対策」 大洲市環境センター 次長 森岡 照久氏 大洲・喜多衛生事務組合 専門員兼業務係長 白石 学氏
	災害廃棄物処理 担当者向け勉強会	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎 「令和2年7月豪雨における収集運搬の対応とその課題」 熊本県八代市 循環社会推進課 課長 田中 和彦氏 「支援側の立場から見た収集運搬の課題と今後の対策」 特定非営利活動法人 京都府京都市 環境政策局 山科まち美化事務所 所長 関 義樹氏
		「災害廃棄物の収集運搬の実情」 広島県広島市 環境局業務部業務第一課 主査 金近 尚憲氏
		「収集運搬の支援と受援のよりよい協働のあり方」 パネリスト：八代市 田中 和彦氏 京都市 関 義樹氏 広島市 金近 尚憲氏 司 会：近畿地方環境事務所 若林 完明氏
		主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎
		「災害廃棄物処理の概要」 近畿地方環境事務所資源循環課 課長補佐 林 篤嗣
		「災害廃棄物処理に向けた環境省の取組」 近畿地方環境事務所資源循環課 上野 友輔
	災害廃棄物処理 担当者向け勉強会 近畿ブロック 第1回	「災害廃棄物に係る補助金制度について」 近畿地方環境事務所資源循環課 首席廃棄物対策等調査官 井上 昭男
		主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎 「災害廃棄物に係る住民啓発の取組み」 茨木市産業環境部資源循環課 連携調整係 係長 岸本 美香保氏
		「災害発生時の行政事務について」 横浜市資源循環局 産業廃棄物対策課 監視指導担当課長 茶山 修一氏
	災害廃棄物処理 担当者向け勉強会 近畿ブロック 第2回	主催者挨拶 環境省近畿地方環境事務所 資源循環課 課長 山根 正慎 「災害廃棄物アプリを用いた研修」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏 京都大学大学院地球環境学堂 教務補佐員 益田 明奈氏
「災害廃棄物処理における災害ボランティアとの連携」 特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城 徹也氏		
「災害廃棄物処理における災害ボランティアの活躍」 内閣府防災担当参事官補佐 市川 琢己氏		
令和 2	セミナー ・災害廃棄物処理 の実態と廃棄物 対策に伴う啓	「災害廃棄物処理における災害ボランティアの活躍」 内閣府防災担当参事官補佐 市川 琢己氏 防災落語「それ、ゴミやおまへんで、被災財でっせ」 ゴスペル亭パウロ防災士・関西キリスト災害ネットワーク

年度	区分	セミナー等表題・講師
令和元	発・支援	クリスチャン防災士ネットワーク世話人 小笠原 浩一氏
		「災害廃棄物に対する市民の行動促進に向けた戦略」 国立研究開発法人国立環境研究所特別研究員 森 朋子氏
		「災害廃棄物処理現場からの報告」 公益社団法人全国都市清掃会議総務部長 大川 敏彰氏
	研修・学習会 ・風水害等に係る 災害廃棄物対策 勉強会	「平成26年8月豪雨及び平成30年7月豪雨における広島市災害廃棄物処理」 広島市環境局 業務部長 林 篤嗣氏
		「災害発生時の行政事務を徹底解説～ダイヤモンドプリンセス号の廃棄物対応から得られた知見も交えて～」 横浜市資源循環局 車両課長 茶山 修一氏
		「近年の災害における廃棄物対策（台風19号に伴う福島県の災害廃棄物対応を交えて）」 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 審査官 切川 卓也氏
セミナー ・頻発する多様な 災害による災害 廃棄物処理の課 題と人材育成	京都府府民環境部循環型社会推進課 循環・リサイクル担当技師 増田 清孝氏	
	奈良県くらし創造部景観・環境局環境政策課 主任主事 栗原 智也氏	
	京都府京都市環境政策局循環型社会推進部まち美化推進課 課長 宮本 博市氏	
	大阪府堺市環境局環境事業部環境事業管理課 主査 福田 智秋氏	
	「災害に強い廃棄物処理システムをつくる」 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 多島 良氏	
	「住民に寄り添った災害廃棄物対応に向けて」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏	
研修・学習会 第1回 (初任者研修)	「平成27年9月関東・東北豪雨の経験から」 茨城県常総市産業振興部生活環境課課長補佐 渡邊 高之氏	
	「災害廃棄物処理行政事務のあらまし」 横浜市資源循環局車両課長 茶山 修一氏	
	「熊本地震における災害廃棄物処理事業(公費解体)への取組について」 熊本市経済観光局観光交流部副課長 住谷 憲昭氏	
研修・学習会 第2回 (解体廃棄物学習 会)	「被災建物の公費による解体撤去と事務について」 横浜市資源循環局車両課長 茶山 修一氏	
	「災害廃棄物対策指針改定及び平成30年7月豪雨災害における廃棄物対策について」 環境省近畿地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長 山根 正慎	
平成30	セミナー 第1回 ・大阪北部地震に おける災害廃棄 物対策について 他	「災害廃棄物処理に関する被災者の意識や行動について」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏
		「大阪北部地震における災害廃棄物対策について」 大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 参事 奥田 孝史氏
		「被災自動車の処理に係る手引書・事例集(自治体担当者向け)」について (公財)自動車リサイクル促進センター
		MS&AD インターリスク総研株式会社リスクマネジメント第一部 災害リスクグループマネジャー 上席コンサルタント 本間 基照氏
	セミナー 第2回 ・頻発する自然災	「多発する大災害での廃棄物処理の現況—自治体の災害対応でどう位置付けられているか。ハリケーン・イルマへの対応と比較して—」 神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授 安富 信氏

年度	区分	セミナー等表題・講師
	害における自治体の廃棄物処理対策	<p>「産官学が連携し、オール関西で災害に備える！」 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏</p> <p>パネルディスカッション 「頻発する災害と近畿圏の被害、災害廃棄物処理対策」 ◎コーディネーター： 京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏</p> <p>◎パネラー（順不同）： 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授 安富 信氏 大阪府環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 参事 奥田 孝史氏 舞鶴市市民文化環境部環境対策室 室長 平野 広道氏 堺市環境局環境事業部環境事業管理課 主幹 水谷 臣氏 近畿地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 課長 山根 正慎 応用地質株式会社地球環境事業部資源循環マネジメント部 部長 眞鍋 和俊氏</p>
平成29	セミナー	<p>「災害廃棄物対策の最新事情」 公益財団法人 廃棄物・3R研究財団 研究参与 高田 光康氏</p> <p>「東日本大震災における災害廃棄物処理の実態」 気仙沼市 市民生活部廃棄物対策課 課長補佐 佐藤 克美氏</p> <p>「事業者が考える災害廃棄物処理対応 ―船舶を用いた災害廃棄物処理について―」 大栄環境株式会社 営業部 課長代理 早川 宏明氏</p>
平成28	セミナー	<p>「災害廃棄物処理の適切な初動対応に向けて」 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター・ 災害環境マネジメント戦略推進オフィス 研究員 多島 良氏</p> <p>「東日本大震災 現場からの証言 復興に向けての課題と提言」 一般社団法人仙台建設業協会 副会長 深松 努氏</p> <p>「災害廃棄物処理の実効性・安全性・信頼性向上に向けて」 京都大学大学院 地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏</p>
平成27	セミナー	<p>「大規模災害廃棄物処理について～東日本大震災等の事例から～」 一般財団法人 日本環境衛生センター西日本支局 環境工学部 技術審議役 宗 清生氏</p> <p>「東日本大震災により発生した災害廃棄物等の処理について ～実績と今後の課題について～」 鹿島建設株式会社 東北支店 富岡町廃棄物処理業務 副所長 松原 武志氏</p>
平成26	セミナー	<p>「東日本大震災津波により発生した災害廃棄物の処理における 岩手県の取組について～被災自治体の取組とは～」 岩手県環境生活部廃棄物特別対策室 特命課長 千葉 実氏</p> <p>「東日本大震災により発生した災害廃棄物等処理への取組み ～何が起こり、どのように処理し、何が活かせるのか～」 株式会社奥村組東北支店 技術部長 桒本 雅春氏</p>

注. 所属、職位は実施時点のもの

2. 参加者アンケート

説明会や研修会の参加者を対象にアンケートを実施した。

アンケート結果を以下に示す。なお、本章の表中、合計値については、四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

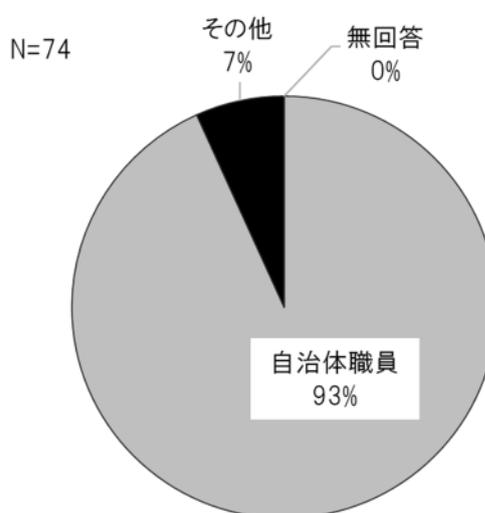
2.1 初任者向け災害廃棄物処理説明会 アンケート結果

①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が93%、その他が7%であった。

図表 5-3 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	69	93%
その他	5	7%
無回答	0	0%
合計	74	100%

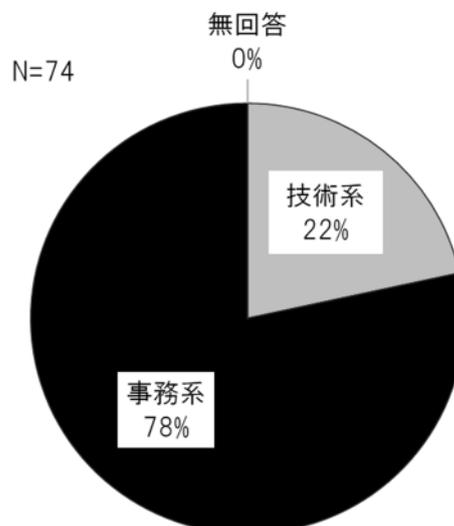


②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、78%が事務系、22%が技術系であった。

図表 5-4 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	16	22%
事務系	58	78%
無回答	0	0%
合計	84	100%

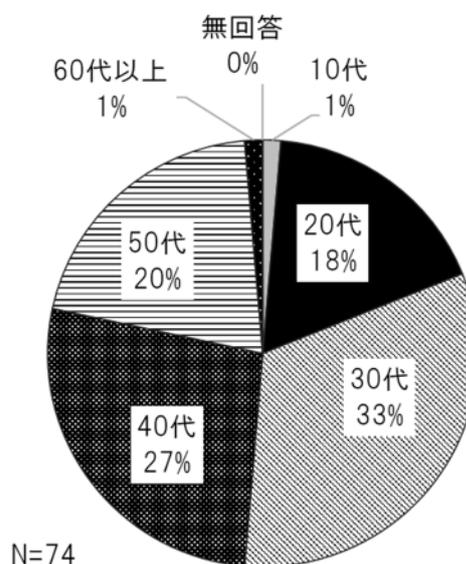


③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、30代が32%、次いで40代が27%、50代が20%であった。

図表 5-5 参加者の年代

年代	回答数	回答率
10代	1	1%
20代	13	18%
30代	24	32%
40代	20	27%
50代	15	20%
60代以上	1	1%
無回答	0	0%
合計	74	100%

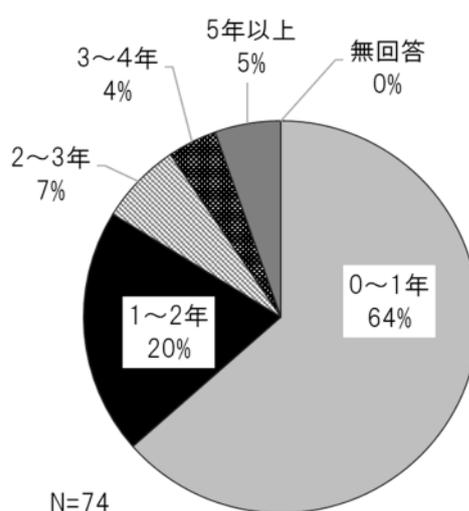


④参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、47%が1年未満、次いで1～2年が20%、2～3年が7%であった。

図表 5-6 参加者の現在の部署の所属年数

所属年数	回答数	回答率
1年未満	47	64%
1～2年	15	20%
2～3年	5	7%
3～4年	3	4%
5年以上	4	5%
無回答	0	0%
合計	74	100%



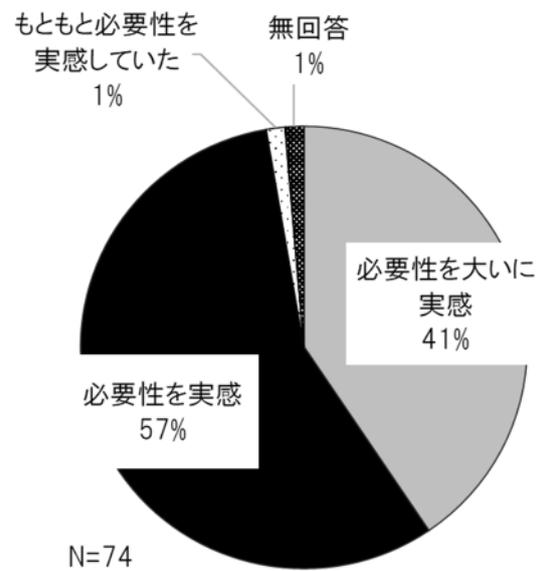
⑤災害廃棄物処理対策の事前の備えの必要性意識の変化

説明会参加前後の意識の変化は、説明会を受講し必要性を「大いに実感」、「実感」した回答が98%であった。

説明会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 5-7 事前の備えの必要性意識の変化

項目	回答数	回答率
必要性を大いに実感	30	41%
必要性を実感	42	57%
必要性を感じなかった	0	0%
もともと必要性を実感していた	1	1%
無回答	1	1%
合計	74	100%



図表 5-8 各講演に対して興味を持った事項等

(より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項、または、すでに知っていた事項、参考にならなかった事項)

講演 1

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	それぞれ参考になりました。
2	災害査定が参考になった。
3	初任者のため、参考になりました
4	仮置き場の設置、各種補助事業等、過去の事例の説明が参考になりました。
5	網羅的に説明され、わかりやすかった。
6	仮置場のアナウンスの重要性が改めてわかりました。
7	実際のごみの現状を知ることができた。事前準備の大きさがわかる
8	参考になった事項 初動対応
9	理想的な仮置き場運営の実例
10	基本的な事項について、よく理解できました。
11	所属1年目だったので、概要を聞くことができて良かった。
12	過去の実際の被災自治体の実例を交えた説明があり非常に参考になった。
13	初めて知ることであったので概要が知れてよかった。
14	地震災害の解体ごみと耐震化住宅・空き家に相関があることを知った。
15	災害発生時の初動
16	他の業務と重なって聞けませんでした。
17	補助金の具体例
18	片付けごみ、解体ごみ、し尿等が災害時に多量に増えるということを実感致しました。
19	発災前の事前準備が大切であることを痛感いたしました。
20	自治体の体制を事前に構築・周知することの重要性を感じました。
21	全体的に参考になった。
22	仮置場の選定等について参考になった。
23	自治体から出向している身として、「自治体が平常時に取り組んでおくべきこと」について大変参考になりました。また、災害廃棄物の収集・運搬の方法について、各自治体の状況（都市部であるか・農村部や過疎地であるか等）によって変わるということを知ることができて良かったです。
24	災害時の廃棄物処理に係る他課との連携の必要であること。
25	災害廃棄物の定義、発生するごみの内訳
26	災害廃棄物処理業務の全体的なスキームや注意点を把握できました。
27	国土の概要から災害発生時における初動まで災害廃棄物の概要について理解を深めることができた。
28	仮置場の設置と運用方法について
29	実際の被災経験を交えた内容であり、非常に説得力がありました。いまの所属に着任したばかりですが、これから色々と勉強したいと考えています。
30	災害廃棄物処理について基本的なことが知れた。
31	地震と水害による発災ごみの違いは参考になった。
32	初動対応のポイント「かきくけこ」がキャッチーで参考になった。
33	事前の備えの大きさがあらためて感じました。仮置場設置運営模擬訓練は、いい取り組みだと思いました。
34	地震と水害によるごみの性質の違いや、発生するごみの種類や種類別の発生時期等、事前にある程度推測できることから計画を立てていくべきであることがわかりました。またごみ処理は災害発生直後から待たないで対応が必要なことであることもよくわかりました。
35	事前に仮置き場を決めておかなければ自治体の把握していない箇所にも廃棄物を捨てられてしまうため、事前に場所を決めておくことが大切だと感じました。
36	災害廃棄物処理の概要について、初心者でもわかりやすいようご説明頂きました。

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
37	災害発生時の概要や準備しておくことなどが知れてよかった。
38	災害時に発生するごみの内容において、「片付けごみ」「解体ごみ」等の種類分けについて、対象となる品物の分別は詳しく知りたいと思いました。
39	地震の場合と水害の場合での災害廃棄物処理の注意事項の違いについて説明されており、非常に参考になった。
40	災害と災害廃棄物全般についてよく理解できました。
41	地震と水害の際の排出されるごみの特性の違いについて興味を持ちました。
42	災害廃棄物処理計画の必要性を大いに感じることができました。自分事に置き換えるとこういった事前準備ができていないのに災害が起きてしまうと、初期機動等の遅れ、更には住民サービスの低下などに繋がることを実感いたしました。
43	平成 30 年の台風被害の際にも、災害ゴミに交じって大量の混合ゴミが発生しており、なかなかそれらを災害ゴミと一般廃棄物とで線引きすることは難しいと感じた。
44	災害発生時のごみの仮置き場の周知について他の市町村での取り組み例等を知りたいと思った。
45	災害において発生したごみがどのような過程で処理されているかを知ることができた。
46	災害廃棄物仮置き場の事前選定の重要性を認識した。
47	自治体が災害に備えて平常時に行うべきことや、災害発生後に開始すべきことについて参考になりました。
48	「令和 7 年度第 1 回大阪府災害廃棄物対策市町村・一部事務組合向け研修」で確認した事項と重複していた。
49	仮置き場レイアウトなど具体的で参考になりました。
50	概要について良く分かりました。
51	廃棄物処理の対応結果や詳細な処理状況
52	災害廃棄物とは何かという基本的な部分は参考になりました。
53	着任 1 年目でしたので、勉強になりました。時間の関係もあつたと思いますが、もう少し踏み込んだ説明があつても良かったと思います。

講演 2

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	それぞれ参考になりました。
2	初動ポイントが参考になった。
3	初任者のため、参考になりました。
4	仮置き場の設置、各種補助事業等、過去の事例の説明が参考になりました。
5	都道府県での処理計画100%ということですが、どういう課題が残っているか知りたいと思いました。
6	国交省等の連携による廃棄物・土砂一括撤去スキームが気になりました。
7	環境省の取り組みを知ることができてよかった。
8	参考になった事項 人材バンクの支援体制
9	計画に取り入れておいたほうが良い内容 発災後に改正した計画の変更点
10	災害廃棄物処理計画策定の内容について詳しく知りたい。
11	環境省が行っている取り組みを知る良い機会でした。
12	人材バンクの制度について参考になった。
13	初めて知ることであったので概要が知れてよかった。
14	D. Waste-Net について初めて知った。
15	わかりやすかったです。
16	災害廃棄物補助について
17	人材バンクの実例をお聞きしたかったです。
18	環境省の取組については既知でしたが、改めてその重要性を認識いたしました。
19	地域ブロックの連携や人材バンク等の協力体制を知ることができました。
20	取組状況について知ることができた。
21	災害時に派遣された職員が気をつけるべきこと・主に行う業務について教えていただけると大変有難いと思いました。(どのような立場で派遣されるか、また、どの段階で派遣されるかによって業務内容は大きく変わりますが。)
22	仮置場設置と運営訓練参加したい。昨年度地方環境事務所に研修会をしていただきましたが、職員および協業者から好評だったので、可能であれば今年もしていただきたいです。
23	支援員制度の制度概要、災害廃棄物処理計画について
24	環境省の取り組みについて把握しました。
25	大規模災害発生時における環境省と自治体との支援連携について学ぶことができました。
26	災害廃棄物処理支援ネットワークについて
27	環境省にて取り組まれている事業についてご説明いただき、年間を通しての事業内容を再確認できました。
28	災害廃棄物処理について国の役割を知れた。
29	相互協力体制や支援スキームなど、改めて確認することができた。
30	自治体支援スキームが、全体像の把握につながって参考になった。
31	WG や研修などしていただけるので、ありがたいと思いました。
32	地方環境事務所を通して国からの支援が得られることや、県を通じて広域連携を行うことが分かりました。政令指定都市はどの立場になるのか少し整理してほしかったです(市町村に含むということでよいのか、県と同じく広域連携等の業務も含めて行う必要があるのか)
33	災害廃棄物についても分別やリサイクルを推進することは大切だと知りました。災害時は処理を迅速に行うように考えてしまいがちなのでむしろこれらを行うことが大切だと気をつけるようにしたいです。
34	環境省がどのような取り組みを行っているか、わかりやすくご説明頂けました。
35	土砂やがれきをまとめて収集運搬できることが知れてよかった。
36	「D. Waste-Net」に関して、仕組み及び取り組みを学ぶことができました。今後の災害対応時に非常に役立つ有益な情報を知ることができました。
37	災害が発生したときの環境省から被災自治体までの支援の流れがわかり易く図式化されており参考になった。
38	近畿地方において廃棄物処理計画が未策定の市町村は全て人口が5万人未満であることを示し

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
	た資料は初めて拝見しました。当県においても小規模自治体の計画策定が進んでいないことは課題として把握しています。
39	災害廃棄物処理計画の必要性を大いに感じることができました。自分事に置き換えるとういこと事前準備ができていないのに災害が起きてしまうと、初期機動等の遅れ、更には住民サービスの低下などに繋がることを実感いたしました。
40	災害廃棄物の処理計画が市町村では、まだそれほど策定されていないということを知った。
41	災害廃棄物処理支援員制度については、実際の経験者の知見が大いに役立つと思うので素晴らしい制度だと感じた。
42	近畿地方環境事務所で今年度から新たにされている事業について興味を持ちました。
43	<ul style="list-style-type: none"> ・ D-waste について更に詳しく知りたい。講演 3 とどのような関係性があるのか（もしくははないのか） ・ 自治体としてどう関わるのか知りたい。
44	具体的な人材育成研修の手法やマッチングなどの手段等
45	D. Waste-Net で対応可能な支援について、より詳しく聴きたい。また当該仕組みで能登災害時に支援した内容、規模について教えて欲しい。
46	着任 1 年目でしたので、勉強になりました。時間の関係もあったと思いますが、もう少し踏み込んだ説明があっても良かったと思います。

講演3

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	それぞれ参考になりました。
2	環境省の取り組みについて、市としては参考にならなかった。
3	初任者のため、参考になりました。
4	仮置き場の設置、各種補助事業等、過去の事例の説明が参考になりました。
5	エクセルの様式は使い勝手を配慮した物のように感じます。実際に利用されている方からの改善要望も踏まえて作成されたのではないかと感じました。その工夫箇所を開陳頂けたらより理解が進んだかなと思います。
6	情報共有フォーマットを実際に使ってみたいと思います。
7	必要性がわかった。
8	参考になった事項 情報伝達の目的（必要性）支援・受援の調整
9	情報共有フォーマットについてよく理解できた。
10	災害発生後の流れを聞くことができ、参考になった
11	情報伝達方法の必要性を交え伝達方法の説明があり納得がいった。
12	情報伝達様式について、事前に試用してみようと思った。
13	災害時に、情報を早急に伝えることの重要性を知った。
14	最初期に必要な伝達事項
15	キントーンを活用するなど、効率的なデータの収集ができないかと思いました。
16	発災後の手続きについて
17	EXCEL を実際に操作していただき参考になりました。
18	情報伝達の目的、意義について再認識でき有意義でした。
19	実際の様式を確認でき、有意義でした。※エクセルの一番左に通し番号があれば、協議の際に伝わりやすいかと思います。
20	情報伝達の重要性について理解できた。
21	自治体と国・県の情報伝達の目的について、再認識できました。支援の優先順位についても触れていただき、大変参考になりました。
22	情報伝達は通信機能が遮断されていた場合の対象方法が知りたいです。
23	発災時における時期ごとの対応の方法、取り扱う情報について
24	環境省との情報伝達による必要性を学びました。
25	災害発生時に情報伝達の重要性を再認識することができた。
26	情報共有フォーマットの活用について
27	4月にメールをいただきましたが、災害時の情報伝達様式について、もう一度各市町村等に展開のうえ、情報共有したいと思います。
28	情報伝達方法について基本的なことを知れた。
29	情報伝達方式について、改めて確認することができた。
30	情報伝達の流れについて参考になった。
31	情報伝達の目的と必要性をあらためて感じました。近畿地方環境事務所や県がと情報を共有することで、支援を考えていただけるのは安心材料になります。
32	あらかじめ情報伝達をする手法や様式が定まっていることに安心しました。発災の際も迅速に対応できるようにしたいです。どのメールあてに届くのかが気になりました。
33	情報伝達に必要な共有フォーマットも紹介して下さって大変参考になりました。職員にとっても市民の方々にとっても被害状況が見やすくわかりやすいです。
34	災害時の情報伝達の大切さを学ぶことが出来ました。
35	災害発生時の情報伝達は非常に重要だと感じた。
36	支援スキームの段階（ステージ）及び災害時の初動対応と共有が必要な情報内容ということで、発災後の対応における優先順位というものを知ることができ、今後の対応に非常に役立つ内容となりました。
37	被災府県内、もしくは被災府県外からの支援の必要性を確認し、被災内容や被災範囲を正確に報告することの重要性を再確認できた。
38	発災時の具体的な情報伝達の流れについてよく理解できました。特に大雨の頻度が近年増加し

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
	ているように感じるため、資料を改めて確認したいと思います。
39	災害廃棄物処理計画の必要性を大いに感じる事ができました。自分事に置き換えるとうい った事前準備ができていないのに災害が起きてしまうと、初期機動等の遅れ、更には住民サー ビスの低下などに繋がることを実感いたしました。
40	大規模災害が発生し、メール機能などが情報伝達手段として活用できない場合はどうするの かと疑問に思った。避難所や自宅避難をしている方などへの情報伝達をどのように行うのかを関 係部署と連携しておくことが重要なのかもと感じた。
41	大地震が起こった際、浄化槽自体が道路に浮き上がってきているという状況を初めて知るこ とができた。
42	災害時の情報伝達について大まかに把握できた。
43	災害時に実際使用される「災害等廃棄物等に関する状況確認 【情報共有フォーマット】」を 紹介いただけたことが参考になりました。
44	情報伝達のエクセルシートについての説明が参考になった。
45	情報伝達のスキームについてイメージしやすくなりました。
46	実際にパソコンを用意した入力研修等〇
47	着任1年目でしたので、勉強になりました。時間の関係もあったと思いますが、もう少し踏み 込んだ説明があっても良かったと思います。

講演 4

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	それぞれ参考になりました。
2	もうすこし補助金制度について聞きたかった。
3	初任者のため、参考になりました。
4	仮置き場の設置、各種補助事業等、過去の事例の説明が参考になりました。
5	事例とご経験を語って頂き興味を持って聞くことが出来ました。
6	能登半島地震の状況を踏まえた現場での課題についてもっと詳しく知りたいと思いました。
7	仮置き場の確保などの事前準備が必要と感じた。
8	参考になった事項 し尿処理の状況と課題
9	仮設トイレ、簡易トイレの優良な活用事例
10	公費解体について興味深く聴けました。
11	災害時の廃棄物処理方法を知る良い機会だった。
12	能登半島での実際の被災状況、どこに問題が発生したか現地の説明を交え大変参考になった。
13	能登半島地震の災害廃棄物処理について、非常に分かりやすかった。災害廃棄物処理時の廃棄物の仮置き場の必要性を実感した。
14	災害廃棄物処理の具体的なイメージができた。
15	災害発生時から仮置き場開設までのスピード感
16	大変参考になりました。仮置き場の広さなどのイメージが持てました。
17	グラウンドの土が補助の対象となること
18	3月下旬までクリーンセンターが停止していた間のごみの処理について詳しくお聞きしたかったです。
19	能登半島の現状、特に仮置場の現状に言及していただいたことが参考になりました。
20	能登の実例が非常に参考になりました。
21	浄化槽や生活ごみ等の状況について具体的にわかりやすく参考になった。
22	能登半島地震の災害廃棄物処理について詳しく知ることができた。
23	能登半島地震の現状について、ニュースでは拝見していたものの、今回の講演を聞いて、自分が認識していたよりもより厳しい状況にあることを実感しました。「浄化槽は災害に強い」ということを認識していましたが、能登半島地震ほど甚大な災害の場合、浄化槽自体が破壊されてしまう、というのは目から鱗でした。
24	珠洲市の災害廃棄物受け入れの項目は災害廃棄物処理計画で予定されていた分別だったのでしょうか。公費解体は廃棄物処理担当以外がしておられたのでしょうか。
25	災害発生時の初動対応、仮置き場の運用に関する事例紹介
26	能登半島地震の被害対応について学びました。仮置き場の運営において、人員配置の人数、勤務時間に目安はあるのでしょうか。
27	能登半島沖地震の被災状態を再認識することで災害発生時における対応の参考にしたいと思う。
28	公費解体制度について
29	実体験を踏まえられた内容であったので、非常に参考になりました。また、能登半島の現地視察でもお世話になりますので、実際に現場を視察し、更なる知識の向上に努めたいと思います。
30	能登半島地震による災害廃棄物処理について詳しい話を聞くことが出来た。
31	公費解体の対象や流れ、申請など、詳しく学ぶことができた。
32	災害時のトイレ事情の内容に興味を持った。
33	し尿処理の方法など参考になりました。また、道路が寸断された場合の対応を考えておくべきだと思いました。
34	“仮置き場について ・県の所有地を使用することは可能か。可能な場合は、県とどういった調整が必要か
35	これまでに聞いた講演を実態に当てはめた場合のお話として興味深く拝聴しました。初動対応の遅れがだんだんに対応し難い問題になっていくこと、また災害時は想定していた施設や道路等が使えない場合もあるため、さまざまな別手段を想定しておく必要があることを学びました。
36	地震で盛り上がった浄化槽・下水道マンホールを写真で見て、尿関係のライフラインを整える

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
	ことが重要だと感じました。
37	能登半島地震における現在の取り組みについて、興味を持っていたこともあり、ためになりました。
38	実例を踏まえての内容だったのでとても参考になった
39	令和6年に発生した、「能登半島地震」に関して、講師の体験談や、実際の現場の写真より、現場の悲惨さや被害状況を知ることができました。発災後にも、市民の方々が非常に苦労されていて、自分の自治体でも、同様な状況になった際の対応方法をあらかじめ想定することが大切であると感じました。
40	「避難所におけるトイレ環境づくりのチェックリスト」が非常に参考になった。
41	5月下旬に視察に伺うにあたって、現地の状況について有益な情報となりました。
42	し尿処理については、あまり意識をしていなかったのが参考になりました。
43	災害廃棄物処理計画の必要性を大いに感じる事ができました。自分事に置き換えるとういう事前準備ができていないのに災害が起きてしまうと、初期機動等の遅れ、更には住民サービスの低下などに繋がることを実感いたしました。
44	屋外に仮設トイレを設置しても、寒すぎて利用を控える行動を取ってしまうのでは意味がないと思った。災害ゴミの仮置き場の設置方法も含め、有事に備えた検討が常日頃から大事であると改めて、考えさせられた。
45	災害時のし尿処理についての現状を知ることができた。
46	能登半島地震における災害廃棄物処理の状況について把握できた。
47	令和6年能登半島地震により開設されている仮置き場や地区集積所の状況について、多くの写真を踏まえて説明いただき参考になりました。
48	被災地の状況を詳細に知ることができたため、参考になった。
49	能登の仮置き場等の状況を見ることができて参考になりました
50	実態が良く分かりました。来週を有意義なものにしたいです。
51	住んでいた人もいない空き家で、公費解体の申請が行われていない場合、(復旧のため解体した方がよい建物は)どのように取扱いますか？申請がないのでそのままでしょうか？
52	現地市町の職員の苦労話や支援で助かったことなど
53	災害の実例として非常に参考になりました。
54	現場市町の担当者の生の声も聞かせていただけると、なお参考になるように思いました。

講演5

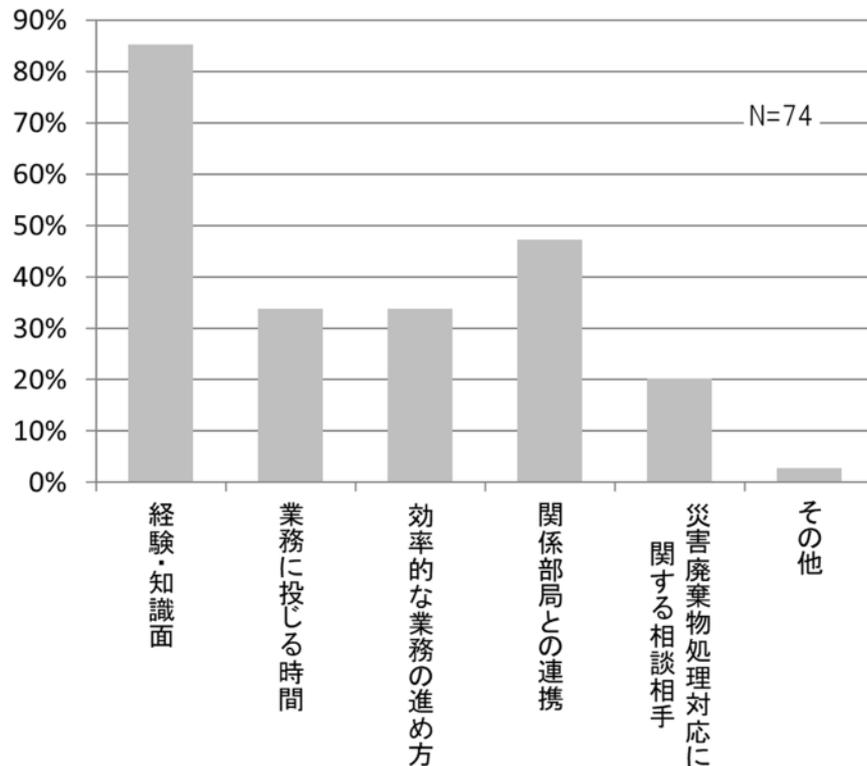
番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
1	それぞれ参考になりました
2	情報伝達について、わかりやすかった。
3	初任者のため、参考になりました
4	災害報告書に関する事例が聞けてよかった。
5	仮置き場の設置、各種補助事業等、過去の事例の説明が参考になりました。
6	査定方法や事例の紹介はとても聞きやすかったです。
7	被災した場合最も業務に関わる部分だと思うので、資料をよく読みこみたいと思います。
8	内容が知りたかったので聞けて良かった。
9	参考になった事項 採択要件の範囲、補助率
10	個別の注意点だけでなく例でもよいので報告資料の全容を知りたい
11	補助金制度については実際に申請するときは災害で混乱している中で写真等十分に証明できるか不安になりました。
12	補助金交付を受けるためのポイントを具体例とともに知ることができて良かった
13	補助申請にあたりどういった資料を購入・発注時に用意しておかなければならないか参考になった
14	補助金制度について詳細事例もあわせての説明であったので分かりやすかった。
15	災害時に補助金制度を利用するために、必要資料や査定について平時より理解しておく必要性を感じた。
16	災害査定の際に報告書が紙で3部必要等の内容について、電子媒体での提出（CD-Rなど）ではダメなのだろうかと疑問に思いました。
17	国・府の仮置き場候補地の情報
18	実例があり、わかりやすかったです。
19	補助金の申請について、添付書類などかみ砕いて教えていただいたことは参考になりました。また、実際の査定事例もあり、分かりやすかったです。
20	申請についての注意点が理解できました。その反面、災害対応中の消耗品購入のために、ホームセンターを3か所回ることを勧められていたのが不思議でした。住民視点では違和感しかありません。
21	災害報告時に必要な根拠資料の事例があり参考になった。
22	補助金制度の流れ等について理解することができた。
23	災害時は至急の対応が必要であり、なりふり構ってられないこともあるかと想像するが、そんな状況の中でも補助対象経費の執行にあたっては慎重な対応を心がけたいと思いました。（「価格の妥当性の証明」「使用事実の確認」ができる資料の用意など。）
24	災害廃棄物処理補助金の対象の一覧表みたいなものがあればいただきたいです。
25	補助対象範囲、申請時の添付資料の詳細、査定時の減額事例
26	補助金制度について学びました。必要物資購入のための3社見積もり・現場活用の写真撮影の重要性を感じました。
27	補助金の留意点についてはとても参考になった。
28	災害等報告書と添付資料の詳細について
29	災害廃棄物処理に係る補助金制度について、災害査定に係る過去の事例が参考になりました。本日、参加できなかった市町村等もあるかと思しますので、情報共有したいと思います。
30	補助金制度について知れた。
31	補助金制度における、補助率や必要書類など、詳しく学ぶことができた。
32	補助金の対象になるケース、ならないケースについて参考になった。
33	公費解体の申請書類について、発災当初から写真で記録することが大切だと学びました。
34	補助金の要綱や適用条件は把握していましたが、実際の要求や査定の具体のお話を興味深く拝聴しました。
35	災害廃棄物補助金の採択方法の注意点を紹介いただき非常に助かりました。補助金を得ることは災害廃棄物の対策にとって重要なので、条件を確認し、申請が可能か内容が間違っていないかを確認しながら進めていきたいです。
36	災害査定に興味があったため、とても役に立ちました。

番号	より詳しく聴きたかった内容、参考になった事項、特に興味を持った事項など
37	想像以上に写真を撮っておくことが重要だと感じたが、非常時にそこまでできる自治体が果たしてあるのかという疑問は残る。
38	災害廃棄物処理に係る補助金制度について、基礎的な部分を知ることができました。今後自身が担当者になった時のために、今後「災害廃棄物処理に係る補助金制度」について、さらに詳しい内容の研修を開催していただけると助かります。
39	災害査定(実地調査)の減額(朱入れ)の事例を挙げていただき、どのような事項について注意すべきなのかを明確にすることができた。
40	補助金関連の業務について、都道府県の役割についてもう少し詳しく聞きたいと思いました。
41	具体的な事例があって理解しやすかったです
42	災害廃棄物処理計画の必要性を大いに感じる事ができました。自分事に置き換えるとうこういった事前準備ができていないのに災害が起きてしまうと、初期機動等の遅れ、更には住民サービスの低下などに繋がることを実感いたしました。
43	補助金が交付される条件としては24時間雨量が80mm以上であるとか詳しい内容を理解することができた
44	補助金制度に関する大まかな概要を把握できた。
45	災害等報告書に添付する各種資料の詳細について、過去に補助対象として認められた事例を具体的に紹介いただけたことが参考になりました。
46	災害が起きた際に、実際に携わる実務に近いため、参考になった。特に補助金の申請を行う際の注意点などが参考になった。
47	採択の際の要件や資料の注意事項など詳しく説明いただいて参考になりました
48	災害査定について失敗(減額等)例を含め、具体的に示してもらったことが大変参考になりました。
49	災害等報告書を作成するにあたっての留意点はたいへん参考になった。
50	補助について今まで不透明だったものが明確になりました。
51	添付資料について、実際の添付資料等と例にお話があればありがたい。
52	査定の過去事例は非常に参考になりました。
53	時間の関係もありましたが、もう少し詳しく説明をいただけるとありがたいです。

⑥災害廃棄物処理対応を行ううえで不安に感じる点

不安に感じる内容のうち、最も多く意見があったのは「経験・知識面」(63人、85%)で、次いで「関係部局との連携」(35人、47%)、「業務に投じる時間」(25人、34%)、「効率的な業務の進め方」(25人、34%)であった。

図表 5-9 災害廃棄物処理対応を行う上で、不安に感じる点 (複数回答、N=74)



注) 回答者全体における割合

図表 5-10 災害廃棄物処理対応を行う上で、不安に感じる点の内容

経験・知識面

番号	不安に感じる点
1	細かいところまで配慮ができないため
2	経験がない
3	非常時に対応するには経験や知識が必須だと考えるため
4	体験と言い換えた方が適切かと思えます。
5	大規模災害への経験がないため、不安があります。
6	ごみ関係業務に従事年数が浅いため
7	業務経験が短いため
8	過去の大きな災害を経験した人員が課に少ないため
9	経験も知識もない中で、混乱なく対応できるかわからないから
10	経験不足をどのようにカバーするかを不安になっているため
11	災害廃棄物にかかる対応は本町では担当者が1人であり、広範な業務内容を覚える必要があり、また実災害時に対応が可能か不安を感じる
12	全く初めての業務であるため。
13	経験が浅いため

番号	不安に感じる点
14	知識を得るために勉強する時間を取れない状況が不安です
15	未体験のためよくわからない
16	処理に関する知識が不足しているため
17	人事異動により災害廃棄物対策に関するノウハウが蓄積されにくい
18	仮置き場での選別等に必要となる処理方法や処理フローを検討する知識がないため。
19	災害業務等の経験が全くないため。
20	災害廃棄物処理をしたことがないため
21	実際に能登地震のような災害に被災した経験が皆無
22	想定される災害の規模が大きく、発災したときの不安がある
23	災害廃棄に対する経験が浅いため
24	これまで災害関連業務の経験がほとんどないため、周りの経験者にご教示いただきながら、知識の向上に努めたいと思います。
25	経験がないため。
26	被災地への応援業務を行ったことがないため。
27	市職員で災害対応を経験しているものが少ないため。
28	実際に行ったこともなく、人事異動で4月から着任したばかりだから。
29	災害の経験がなく、直面した際の対応力に自信がないため
30	配属1年目であり、知識が圧倒的に不足していることと、災害対応の経験がなく具体的な状況を想定しにくい
31	知識不足のため
32	災害関係の担当になったことがないため
33	経験や知識がないと、市民への対応が不十分となると感じたからです。
34	勤続年数が短いため
35	廃棄物行政の経験が浅いため。
36	膨大な業務量を限られた人員体制で処理することが想定されるため
37	当部局は人の入れ替えが激しい部局であり、更には配置されている人数も2名+管理職とかなり少ないです。そういった中マニュアル（災害廃棄物処理計画）的なものがなければ、実際に災害が起きた時にどうしたらいいかわからず立ち往生する危険があると感じました。
38	災害に対応することは稀なことだと考えます。そういった経験があるなしで、より効率的な業務遂行にも繋がるし、「あの時はこうした」という気持ちの余裕も生まれると思います。
39	まだ配属から時間がたっていないため
40	実際、災害の場というのを経験したことがなく、災害というのは起こる場所・時間・全てにおいて対応の仕方が1パターンでないことにとっても不安を感じました。
41	まだ全体的な流れを把握しきれていないので不安を感じている。
42	市民からの問い合わせに対して仮置き場や、運用がきちんとできるか不安
43	あまり災害が発生しない地域であり、職員もほとんど意識していないため。
44	4月に異動したばかりだから
45	実際に災害現場を知る機会がなく自分自身も一回も被災体験がない。災害に対する意識も低いと思う。
46	被災地で活動をしたことがないので経験不足と感じる。
47	経験はもちろんのこと、現場状況と対策の乖離がないようにしないといけない。
48	災害対応した経験者がほぼいない。阪神淡路の経験者が退職している。
49	今回はじめて研修を受け、知識や理解度等浅いし処理対応の経験もないので
50	災害発生時は、経験が非常に大事なように思いますので、伝承等の引継ぎなどが重要だと思います。

業務に投じる時間

番号	不安に感じる点
1	時間配分が不明
2	通常の業務も当然あるため、災害対応にかかる時間が気になります。
3	全く初めての業務であるため。
4	他の業務を多く抱えているため、災害廃棄物対策に時間を投じられないのが不安です
5	ある程度の覚悟は必要だと思いが、未知の世界で膨大な業務量が容易に想定されることについては、やはり不安を感じる。
6	業務量が把握できない、また人員不足が想定されるため
7	災害対策本部業務（防災担当課が同じ課内にあるため）と同時平行で進められるか心配。
8	災害の規模によって、対応期間に終わりが見えなく、不安を感じる
9	知識不足のため、特に最初は内容を理解するのに、多くの時間を要します。
10	担当者1名係長1名体制であり、実際の状況が生じた際には組織内のみならず応援がないと業務が回るとは思えないため。
11	災害が起こった場合、拘束時間が長いため
12	実際にどれくらいの時間をかけてやればよいのかわからない
13	他の業務との兼ね合いがあり、部署の人員も限られている。
14	締結している関連組織や、市民からの問合せ、その他事務に対しての作業がどの程度圧迫されるかの、見通しが立てられていないため
15	通常業務に加え、災害対応の業務ができるのか不安である。
16	未就学児がいるが、業務出来るのか…。
17	現状の体制などは到底処理困難なため人員体制の構築が必要
18	災害の規模により終わりが見えなような状況もあり得るかと思うため
19	日常の処理に増しての業務量が想定されるので、現状の体制だけでさばっていくには、支障が生じると思います。

効率的な業務の進め方

番号	不安に感じる点
1	なにから手をつければよいのか不明
2	迅速性が求められると考えるため
3	限られた人員しか配置されていないため
4	効率的に業務を進められるか不安に感じているため
5	全く初めての業務であるため。
6	市町村からの情報を環境省に伝達する業務を効率的にできないかが不安です
7	冷静に判断できるだけの経験がないため。
8	想定される業務がわからないため
9	災害廃棄物処理の運営訓練をしたことがないため
10	状況に多くの制約がある
11	何から始めたらよいのかすら、わかっていないため
12	膨大な業務量を限られた人員体制で処理することが想定されるため
13	初期機動の遅れで効率的な動きができないと取り返しがつかないことに直面する危険性を感じた。
14	経験や知識がない中で、どれだけスムーズに業務遂行ができるかが、早期災害復旧に直結すると考えるからです。
15	多くの災害対応業務の中で、廃棄物処理にかかる業務の優先性、重要性が伝わらない（伝えられていない）
16	今回はじめて研修を受け、知識や理解度等浅いし処理対応の経験もないので
17	優先順位の決定。業務のトリアージ的な発想も必要に思います。

関係部局との連携

番号	不安に感じる点
1	応援体制のイメージがつきにくい。
2	連携がとれるか心配である
3	他市、県、国、関連事業者等、連携をとる必要のある先は多数にわたり、どの分野はどこに連絡すればいいのかなど混乱しそうです。
4	被害によって関連部署がどこまで及ぶのか想定できないため
5	発災時の混乱の中限られた人員で正確な伝達が行えるかが不安である
6	多くの人がかかわる中でうまくまとめられるかわからない。
7	関係部局とうまく連携できるか不安だと感じているため
8	全く初めての業務であるため。
9	庁内の危機管理部局やし尿担当との連携が必要なのですが、お互いに多忙なため不安です
10	事前の準備が大切ではあるが、経験がないため、関係部局との連携をどのように進めればよいかかわからない。
11	本部局も含め関連部局も知識や経験等が不足したり人員不足であることが想定されるため。
12	実際災害起きた場合、廃棄物処理は廃棄物処理担当がしてくれるものだと他課の職員は考えている可能性が高いため
13	実際に経験したことがないため、他機関や他所属等と円滑に連携が図れるか不安
14	入庁したばかりであり、他部局との連携状況を把握できていないため
15	関係部局との連携のなかで、日ごろ災害時の想定をしている職員が少ないなかで、スムーズに組織的に動けるのかと感じている。
16	実際に災害が発生する前に多くの部署と連携しておく必要があると思うが、実際にどのように調整しているのかわからない
17	自身の部署についてもまだ把握しきれていないことがあるため
18	平時でも廃棄物についてよく理解していない庁内部署が多い。災害時の廃棄物について意識が向けられていない。
19	連携先の職員の成熟度等、バランスが取れていない中、どう連携すべきか。
20	横断的に速やかな対応が必要
21	平常時からの連携が必要。
22	今回はじめて研修を受け、知識や理解度等浅いし処理対応の経験もないので
23	現場のみでの処理は困難ですので、応援体制の確立など平時からそういった意識づけが日知用と思います。

災害廃棄物処理対応に関する相談相手

番号	不安に感じる点
1	県や国のどこに相談すればよいのか不明
2	経験をしたことがないのでどのような相談をするのかも未知数だから
3	全く初めての業務であるため。
4	民間団体との協定が発災時に実効できるか不安です
5	経験がないためつながりがないので。
6	専門知識が必要であるため
7	災害廃棄物処理をしたことがないため、災害時搬入先と調整しきれるか不安がある。
8	実際に災害が起きる時は、1市町村のみの被害ということではないであろうことから、都道府県は相談に乗ってくれるのか、自治体の判断に任せると言われるのではないかと考えている。
9	前任者がおらず、特に引継ぎなどもないため、誰に相談したらよいかかわからない
10	災害廃棄物処理の対応において、問題点が発生した際、まずどこに相談等をすれば良いか知っておかないと対応が遅れが生じると感じたからです。
11	庁内に経験者がいないため。
12	大規模災害の指揮経験が無い中、何が正解なのか分からない。

その他

番号	不安に感じる点
1	廃棄物処理施設勤務なので、災害時にどのように運営していくかが問題
2	補助金をもらうために必要な記録の取り忘れ。過去の写真はとれない。

⑦所属機関（団体）の災害廃棄物処理に関する協定締結状況及び締結先

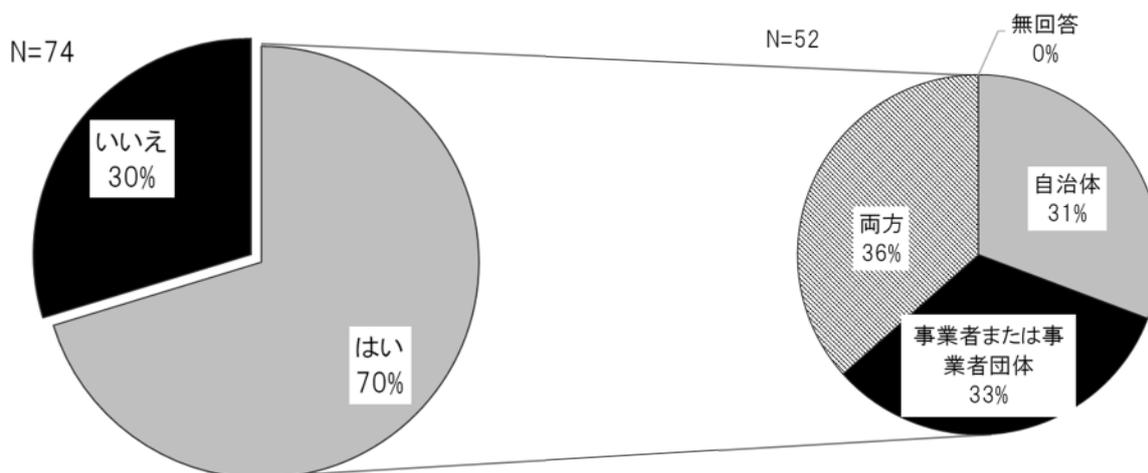
災害廃棄物処理に関する協定を「締結していない」と回答した団体が30%あった。

災害廃棄物処理に関する協定を締結している団体の割合70%で、「自治体」と「事業者または事業者団体」両者と締結している団体が一番多く37%であった。次いで、「事業者または事業者団体」の回答が33%であった。

図表 5-11 災害廃棄物処理に関する協定締結状況及び締結先

項目	回答数	回答率
はい	52	70% (100%)
自治体	(16)	(31%)
事業者または事業者団体	(17)	(33%)
両方	(19)	(37%)
無回答	(0)	(0%)
いいえ	22	30%
無回答	0	0%
合計	74	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



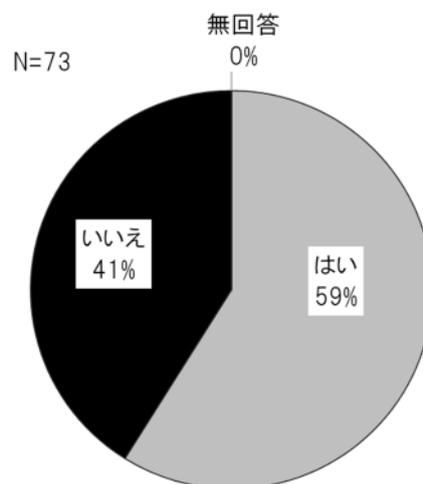
⑧災害時の対応準備状況

災害時の対応準備状況については、「はい（災害時にすぐ動ける準備がある）」の回答は59%、「いいえ」の回答は41%であった。

図表 5-12 災害時の対応準備状況

項目	回答数	回答率
はい	43	59%
いいえ	30	41%
無回答	0	0%
合計	73	100%

注) 複数回答は無効票として対象外とした (1票)



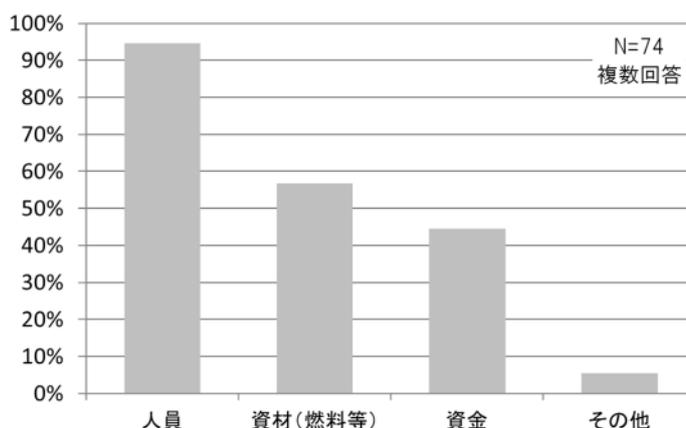
⑨災害時の人員、資材等の不足 (複数回答可)

災害時不足が予想される物資等は、「人員」の回答が95%と最も高く、ほとんどの団体がこの項目を回答した。次いで「資材（燃料等）」が57%、資金が45%であった。

その他の回答は、「心的余裕」、「仮置場」、「知識」などの回答があった。

図表 5-13 災害時の人員、資材等の不足 (複数回答、N=74)

項目	回答数	構成比
人員	70	95%
資材 (燃料等)	42	57%
資金	33	45%
その他	4	5%



その他の内容

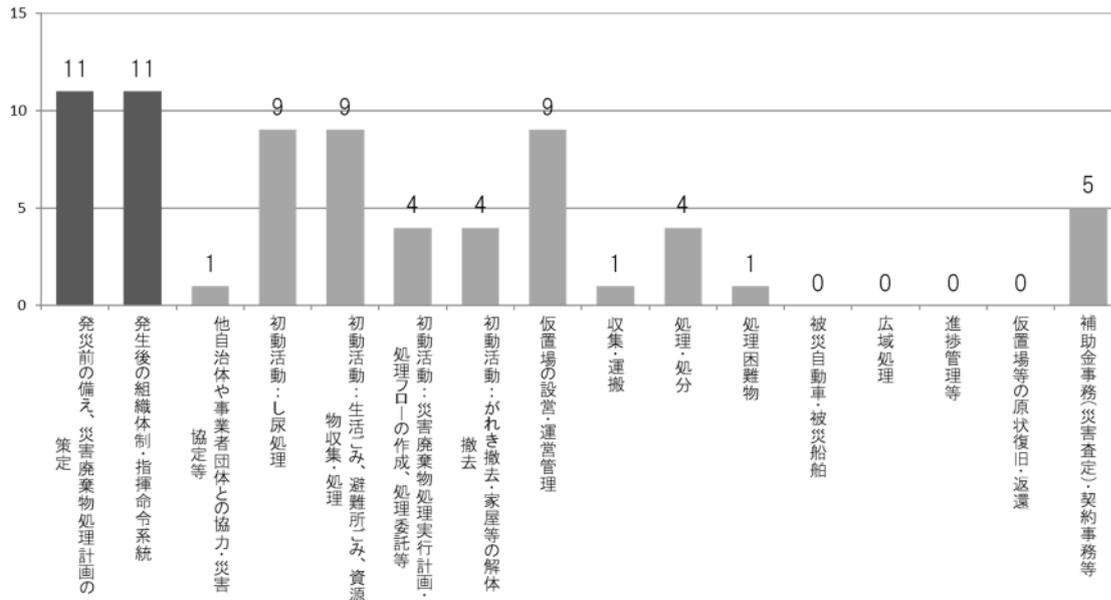
- ・ 心的余裕
- ・ 仮置場
- ・ 知識
- ・ 手積みダンプ等のハード、+人員
- ・ 敷地

⑩災害廃棄物処理に関して関心のある内容

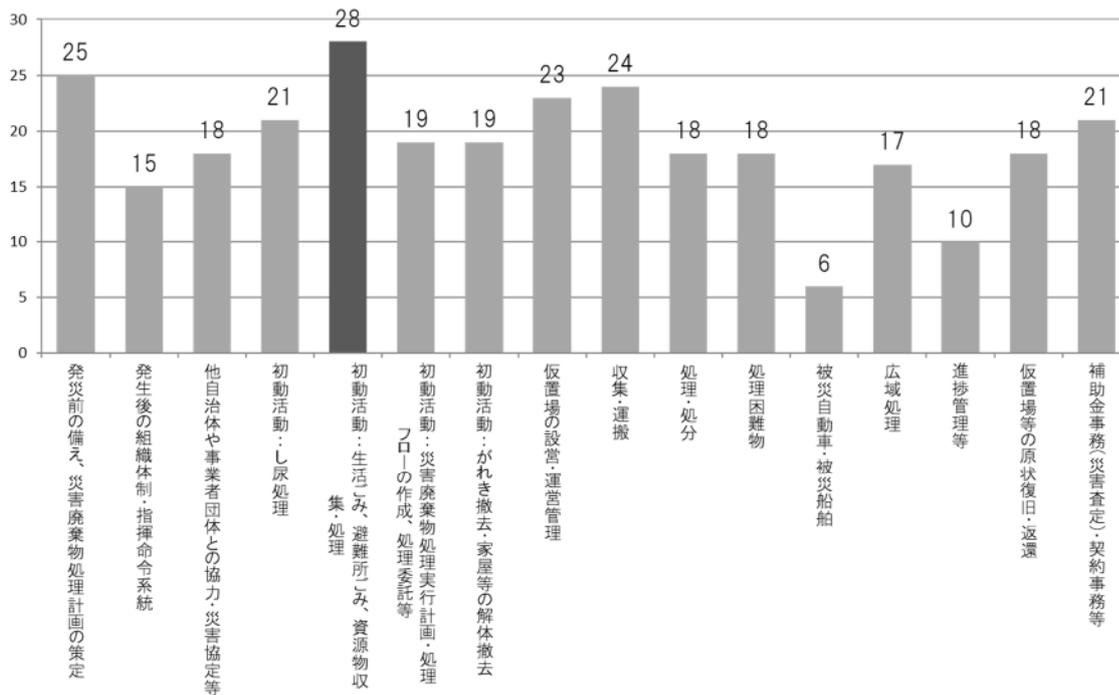
災害廃棄物処理に関し、特に関心のある項目は「発災前の備え、災害廃棄物処理計画の策定」、
「発生後の組織体制・指揮命令系統」であった。その他の項目としては、「初動活動：し尿処理」、
「初動活動：生活ごみ、避難所ごみ、資源物収集・処理」、「仮置場の設営・運営管理」の回答
数が多かった。

図表 5-14 災害廃棄物処理に関して関心のある内容

【特に関心のある内容】（1つ選択）



【関心のある内容】（複数回答）



⑪質問事項

災害査定報告書の電子化の要望、査定の柔軟性に関する質問があった。

図表 5-15 質問事項

番号	取組についての意見
1	災害査定の際の報告書を電子媒体にできるようにご検討いただけますと幸いです。
2	査定は一発勝負なのでしょうか。予備みたいなものはあるのでしょうか。

⑫感想等（自由記入欄）

説明会の感想としては、複数の参加者から肯定的な評価があった。一方で、研修内容に関して、補助金、仮置場の選定・設営・運営管理、民間との協定といった点に関して、さらに詳しい説明を求める声が寄せられている。

図表 5-16 感想等（自由記入欄）

番号	感想等
1	勉強する機会を頂きありがとうございました。
2	今後の研修について「災害廃棄物処理に係る補助金制度について」のみをピックアップした研修を開催していただけると助かります。
3	仮置場の選定方法や災害時の仮置場の設営・運営管理についてより具体的にお聞きしたいです。
4	防災部局から異動してきましたが、災害廃棄物処理の概要から災害査定まで、全体を知ることができる良い研修でした。ありがとうございました。
5	民間事業者との協定のあり方
6	民地を仮置場として借り上げた場合、補助対象となるのか教えていただきたい。また、原状復旧費についても対象となるのか。
7	お世話になり、ありがとうございました。今後もこういった研修を開催していただけるとありがたいです。

2.2 令和7年8月21日 課題別研修会 アンケート結果

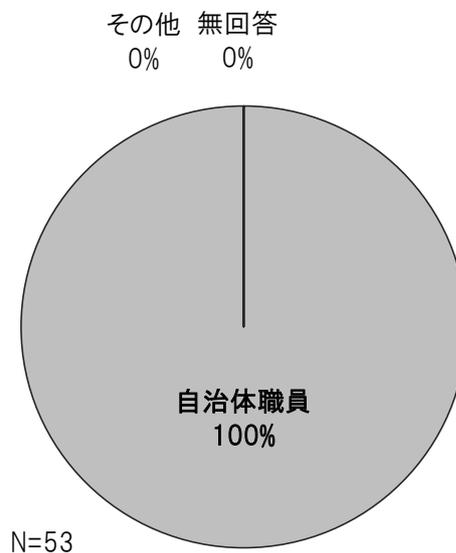
①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が100%であった。

図表 5-17 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	53	100%
その他	0	0%
無回答	0	0%
合計	53	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



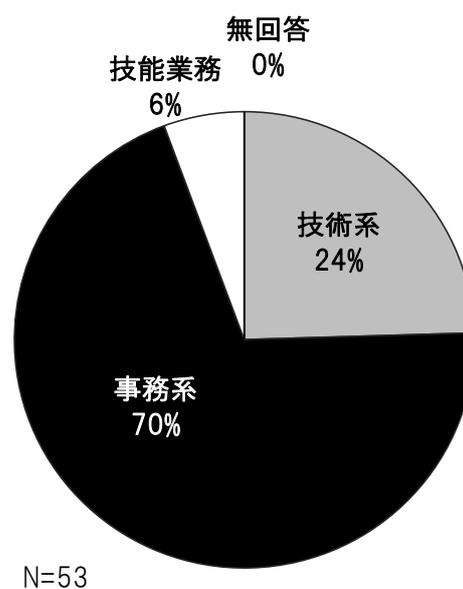
②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、70%が事務系、25%が技術系、6%が技能業務であった。

図表 5-18 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	13	25%
事務系	37	70%
技能業務	3	6%
無回答	0	0%
合計	53	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



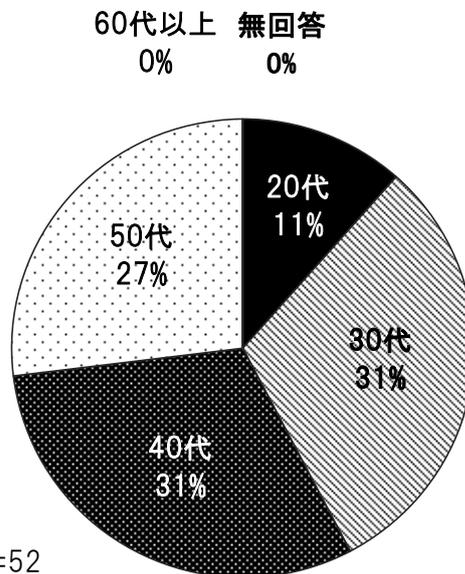
③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、30代、40代がそれぞれ31%、次いで50代が27%であった。

図表 5-19 参加者の年代

参加者の年齢	回答数	回答率
10代	0	0%
20代	6	12%
30代	16	31%
40代	16	31%
50代	14	27%
60代以上	0	0%
無回答	0	0%
合計	52	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある
複数回答は無効票として対象外とした (1票)



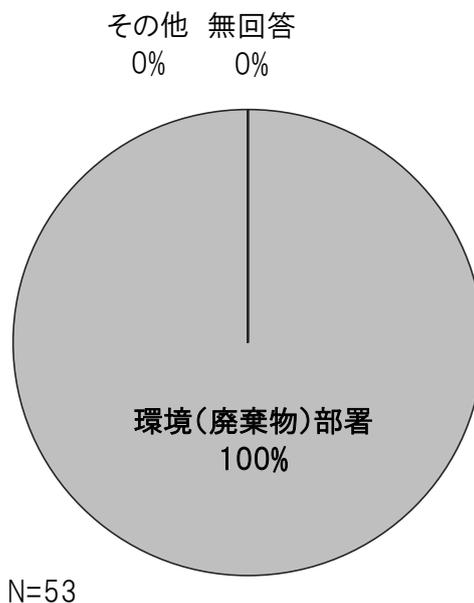
④参加者の所属部署

アンケート回答者の所属部署は、環境（廃棄物）部署が100%であった。

図表 5-20 参加者の現在の部署の部署

所属部署	回答数	回答率
環境（廃棄物）	53	100%
その他	0	0%
無回答	0	0%
合計	53	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



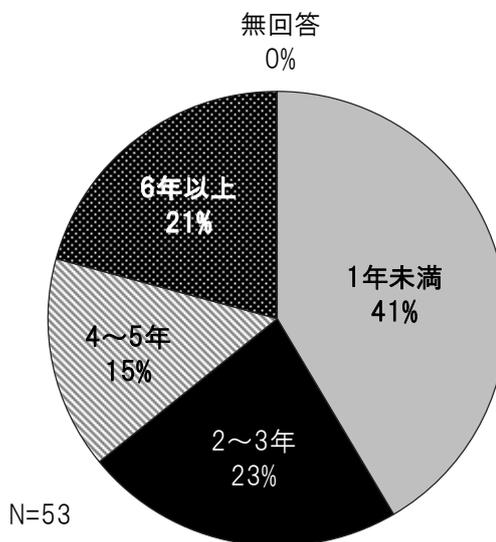
⑤参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、1年未満が42%、次いで2～3年が23%、6年以上が21%、4～5年が15%、であった。

図表 5-21 参加者の現在の部署の所属年数

所属年数	回答数	回答率
1年未満	22	42%
2～3年	12	23%
4～5年	8	15%
6年以上	11	21%
無回答	0	0%
合計	53	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑥廃棄物処理の対応に対する意識の変化

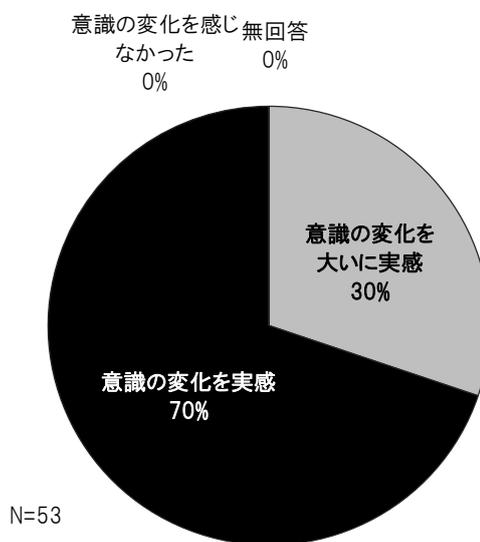
研修会参加前後の意識の変化は、研修会を受講し意識の変化を「実感」が70%、次いで「大いに実感」した回答が30%であった。

研修会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 5-22 集積所・仮置き場に係る選定や設置運営の必要性に対する意識の変化

項目	回答数	回答率
意識の変化を大いに実感	16	30%
意識の変化を実感	37	70%
意識の変化を感じなかった	0	0%
無回答	0	0%
合計	53	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑦各講演に対して参考になった事項など

図表 5-23 各講演に対して興味を持った、参考になった事項等

講演 1

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	発災時の動き方
2	業者の選定について
3	申し訳ございませんが、前の会議が長引き視聴することができませんでした。
4	災害廃棄物の仮置き場の重要性を感じました。
5	現場の市町村と県や環境省との連携がうまくいっていないという事例から、今後うまく分担をあらかじめ考えて市町村と共有しておく必要があるのではないかと考える。
6	これまでの経験が役に立ったという点。
7	全部ではありませんが、特に公費解体についての実際の対応や流れのご紹介について。
8	公費解体受付の窓口の設置の際、被災者生活再建支援や住宅応急修理の窓口も併設されていたこと。
9	全体的に参考になりましたが、内陸の自治体のため海上輸送については参考にできませんでした。
10	具体的な時系列やシステム画面を確認できて参考になりました。県との連携が難しいことが実感できました。
11	いろいろな部署での経験が必要であると参考になった。
12	GIS を活用した損壊家屋公費解体の進捗管理は参考になりました。
13	仮置場についての事例
14	公費解体において、民間企業が持つ技術を使って解体の進捗状況を随時把握できる取り組みをしていたのは参考になりました。
15	公費解体、自費解体の在り方については、今後、本市でも検討したい。
16	同じ規模の市町村から参加させていただきましたので、担当者が少ない中での対応のイメージができたことがとてもためになりました。
17	し尿と生活ごみが盲点になりがちであることが参考になった。
18	参考になった事項は、災害廃棄物処理計画を整えて、仮置場の候補地を選定しておくこと。
19	被災市町村と国や都道府県との連携における課題を認識できた。また、災害廃棄物計画の策定の重要性や仮置場の候補地の検討は重要であると再認識できた。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・発災後の初動対応として、やはりし尿処理の対応がすぐに必要だと再認識しました。また仮設トイレの設置場所の把握をしないと、その後の管理に支障が出ると感じた。 ・片付けごみと解体ごみの発生量や仮置場必要面積に、これほどの違いがあるとは思わなかった。 ・補助金を活用した事業について、環境省と国交省の連携事業で実施するのか、分けて実施するのか、それぞれのメリット・デメリットをよく理解したうえで進める必要性を感じた。
21	令和6年能登半島地震における仮置場について搬入する頻度や周知方法、当初災害廃棄物処理計画にはなかった場所を選定したなげなど、非常に参考になりました
22	公費解体の申請について、市民のために他の相談も含めワンストップ窓口にしたことは参考になりました。
23	実際の仮置場立ち上げや公費解体の窓口設置のスケジュール感等、本当の求められるスピード感が参考になりました。
24	仮置き場の選定をするうえで他部署と調整が必要であること
25	災害廃棄物処理対策の体制構築について
26	二次仮置き場の必要性について、参考になりました。ボトルネックになった際でも、円滑に搬出ができるように検討が必要と感じました。
27	限られた人員の中で、国や県と難しい連携をされて業務を進められた様子が参考になった。
28	海上搬出による処理、公費解体への対応に係るデジタル化が特に参考になりました。
29	実際の動きや認識不足だった点を聞いて参考になった。
30	【参考になった事項】 公費解体の進め方、補助金を見据えた対応について
31	災害発生からの動きが実体験をもとにしたお話だったので、イメージしやすく参考になりました。

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
	どのような関係機関、団体に支援を求めるのかなどわかりやすかったので参考にさせていただきます。
32	初動対応の盲点については、どの自治体も陥る可能性があるため、経験された自治体からアナウンスしていただけたのはすごくありがたいと思います。
33	災害廃棄物の処理と公費解体について参考になりました。
34	参考になったこと：「過去に配属された部署の仕事が災害時の対応に生かされた」という話を聞いて、全く関係ない部署にいても何らかの知識が生きてくるんだと感心した。 参考にならなかったこと：本市には仮置場候補地がほとんど無く、あっても仮設住宅予定地や緊急車両集合場所になっていて、入り口から躓いている（広い土地が欲しい…）。
35	発災後、何をいつからどのように対応したかであったり、環境省・県との連携不足など、実際に震災を経験したからこそその実態を聞くことができ、参考になった。
36	公費解体の事例が参考になった。
37	発災後の迅速な対応もですが、通常、解体工事や廃棄物処理、進捗管理等のコンサルタントの契約業者を少なくあるいは統一することで、連携を図りやすくしたことや、その後に起きた水害事業を単独で実施して按分や数量管理を明確化する等、効率的に業務を進められていて、参考になりました。仮置場の候補地が他の避難所等の候補地と重複する可能性があることや、国・県等との連携・共有の難しさ等経験からのお話が伺えたので非常に参考になりました。
38	災害時に利用できる仮置場の確保や公費解体における手続きの流れについて課内で検討し、有事に備え準備しておくこと、また、常時から他の自治体と広域処理の協力体制について協議しておくことが大切であると感じた。
39	事前にシミュレーションしておくことが有効である。
40	実際に対応された職員からの講演で、リアルな声が聞けてよかったです。今後もこういった研修をお願いします。
41	他部署での経験が役に立つことに気付きを得た。3年で移動するので知識や経験の継承が課題だと感じている。
42	仮置場・公費解体などの事業予算を考えないといけないこと。目の前の対応で大変ではあるが、予算をはやめに検討する必要性。
43	トイレのつまりの相談、対応を自治体でやらないといけないのは盲点でした。また、県との連携に苦難したとのことだったので、大阪府とちゃんと連携をとれるようにしていきたいです。
44	・実態を踏まえた仮置場の整備 ・公費解体に関する市・県・国の対応と課題
45	仮置場の選定
46	県・国を含めもっと上の方に意識を持たせる必要がある
47	公費解体の申請について、県と市町村でのスタンスが異なることで、市民に寄り添った対応ができなかった部分があると聞き、改めて府との共通認識を深める必要があると感じた。
48	仮置場の選定
49	複数の災害が起こったことに対し、補助金を見据えた方針ということで、あえて分けて事業を実施したこと。
50	仮置場の選定経過、公費解体スキーム（事業者等との関係）について参考になった。
51	発災時の動き方
52	業者の選定について

講演 2

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
1	平時からの仮置き場の選定が大事。民間にお願い出来ること。
2	役割分担
3	官民の情報共有など体制づくりが参考になった
4	災害廃棄物の仮置き場の重要性を感じました。
5	行政では手が回らない範囲などで民間と連携していくことで、効率的な復旧につながることで、また、復旧の際にはその計画を官民で共有し、把握しておくことが重要だと考えた。
6	災害においては想定外を踏まえて、できるだけ多くの案を持っておくことが重要だと感じた。
7	最初期においては、精度よりも速度を重視した荒計画の立案と共有の重要性について。
8	経験が豊富だからこそ、初動の速さや具体的な対策の説明がとても参考になりました。
9	選別プラントや手作業の様子がわかり、参考になりました。
10	平時の備えが重要であり、それにより初動対応がスムーズに行えるのだと参考になった。
11	多くの自治体に対する災害廃棄物処理支援の経験についてご説明いただいた点が参考になりました。
12	各自自治体とのコミュニケーション
13	海水を多く含んだ木材などの津波堆積物から塩分を除去できる攪拌装置は、来たる南海トラフ巨大地震でも相当活躍することになるのではないかと思います、この点参考になりました。
14	データ管理の重要性。災害時にどのようにデータを把握し、共有すべきか参考になりました。
15	失礼ながら、今まで御社を存じ上げておりませんでした。本日は、災害時に頼りになる会社があるという頃を知れたということが、ものすごく大きな収穫となりました。
16	津波によって海水を被った災害廃棄物は塩素濃度が高くなり制限がかかってしまうので除塩する必要があることが勉強になった。
17	災害時に関係者の意思統一のためには、具体的な行動指針が必要であるとともに平時の備えが重要だと感じた。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・計画立案と予実管理として、具体的な数字を出して、荒い内容でも作成のうえ、関係者で情報共有し、具体的なイメージや共通認識を持って作業することが大事であると再認識した。 ・これまでの災害時の実績をもとに、そろそろ費用積算の標準化を図る必要があるとの意見に同感した。 ・都道府県と市町村の役割分担の明確化については、民間事業者の視点からも大事であると感じた。
19	自治体に代わって処理計画を策定していることには驚きました。システムフローについて、とにかく早く片付けることを優先することは忘れないでおこうと思います。参考になりました。
20	コンサルタント会社をはじめ、民間会社の協力なしでは災害廃棄物処理事業は成り立たないと改めて認識しました。
21	民間事業者の協力をどのような部分でどう得ればよいのか分からない点が多くありましたが、非常にいろいろな観点から立ち上げの協力をいただけることを知り励みになりました。
22	民間事業者との提携可能分野が明確にされたこと
23	二次選別計画のシステム構築について
24	津波被害の想定がある地域は除塩処理が必要になる場合があることについて、参考になりました。
25	被災した行政からの指示を、着実に遂行できる優れた民間事業者があつてこそ廃棄物処理が進んでいくということを再認識できた。
26	塩分除去システムの確立など、津波災害への対応
27	業務の都合により閲覧できなかったので回答は控えます。
28	途中退室のため、不明
29	災害発生時からの必要な行動の流れがわかりやすかったです。民間事業者に今回の説明にあつたような感じでお世話になれたら心強いとは思いますが、補助があたるにしても、費用面はどういう感じになるのかなと気になりました。
30	処理計画の実行にあたり、現場の指揮命令システムの確立の話は、非常に参考になりました。混乱している状態で、指揮系統も複数あるとさらに混乱するため非常に重要なことだと思いました。
31	海上運搬に関して参考になった
32	参考になったこと：事業者が多角的に、また客観的に現地を見て資料を作成してくれることで、

番号	今回の研修会において参考になった事項、参考にならなかった事項など
	目の前のことに必死になりすぎて全体を見渡せていない状況に気づけた。
33	大規模災害の対応は、民間企業との連携は必須であるとは思っていたが、災害廃棄物処理システムの設計まで協力してもらえとは思っていなかった。自治体が主となって大規模災害対応を計画し、仮置場運営などの実務を委託するものだと考えていたので、参考になった。
34	仮置場の選定方法が参考になった。
35	仮置場への搬入ルートや市町村外へ搬出する際は生活道路等を考慮しながら複数確保しておく、仮置場をあらかじめ選定しておき周囲の理解を得ておく等、数値化された具体的な計画の必要性を改めて感じ、参考になりました。
36	災害時における片付けごみ等を迅速に適正処理するために、必要に応じ、協定締結者（産業資源循環協会等）に協力要請するなどが大切であると感じた。
37	行政には限界があるので、地域が一体となること、他の地域での経験や反省点を活かしての対応が必要になるということ。
38	被災地の災害廃棄物処理に関する現場の裏側の話聞いて参考になりました。
39	民間との連携の大事さを学びました。
40	早期に計画を立てて、状況に合わせて変える意思決定機関を設置し、マネジメントをしたこと。
41	民間の目線からの作業体制等は勉強になりました。海水を被った災害廃棄物は搬入量が制限されるということは知りませんでした。
42	・初動対応（特に民間事業者）の重要性 特に計画立案 ・デジタル技術の活用（有用性）
43	担当者では分からないことが多いので、平時より講演等により住民も含めて意識改革が必要と思いました。
44	現場目線からの計画立案の重要性について非常に参考になった。自治体として取り組むべき業務を改めて確認できた。
45	災害廃棄物処理計画の策定と、複数の被害想定、初動含めた行動計画策定の必要性
46	計画策定のスピード感と数値の設定が重要だと感じた。
47	民間事業者からの視点での説明、現在の取り組みについて参考になった。

⑧研修会の感想など

図表 5-24 具体的に詳しく聞きたい事項、本日の感想等

番号	感想等
1	被災自治体の経験は大変参考になる。
2	他の自治体では、平時から、中学校、高校、または大学などでどのような災害廃棄物出張講座を行っているのか（何か啓発グッズなどを使った学習会を継続的にしているかなど）について、今後機会があれば拝聴したいと思いました。
3	平時に自治体と民間事業者とどのような協定を結んでおき、契約単価や仕様書などどこまで決めておくと望ましいのか、事例があればお聞きしたいです。
4	平時の備えが大事
5	貴重なお話ありがとうございました。
6	災害経験がないため、経験者の話は大変ありがたく、計画等の見直し等に参考になります。
7	大規模災害への対応に係るデジタル化など先進的な取り組み事例があればご紹介いただきたい。本日も、貴重な講演をありがとうございました。
8	感想： 講演1 当組合管内の2町はいずれも昔ながらの住宅が多く半島で道路を寸断される可能性が極めて高い地域であり、共通点の多い能登町様のお話は、当組合にとって切実な内容でした。 講演2 東日本大震災の際に災害廃棄物について、県下の処理施設の余力が少ないため、セメント工場の規格に合わせた上で処理をしたこと、廃棄物に付着した塩分を効率的に除去するために様々な実験を行った結果、最適であったカスタマイズした攪拌・洗浄装置を使用した等の話は、恥ずかしながら初めて知りました。過去の事例を学んでおく必要性を痛感しました。 講演内容の要望： 施設の管理をしている組合のため、一般廃棄物処理施設が被災した際の復旧までの流れや、もし復旧まで時間がかかった場合その間どのように処理したか等、施設復旧に焦点を当てた内容の講演も今後ご検討いただければ幸いです。（研修会の趣旨にそぐわないお願いであれば、こちらはご放念ください）
9	実際に現場で事務作業などをしていただいた方が直接説明をしていただいたため、非常に勉強になりました。早速明日には災害廃棄物処理計画を確認していきたいです。
10	現場のご経験を踏まえた貴重な講演であった。
11	担当者、住民、国に意識の相違がある。これをどうすべきなのか体験したものにはしか想定できないのが残念です。

2.3 令和7年12月4日 課題別研修会 アンケート結果

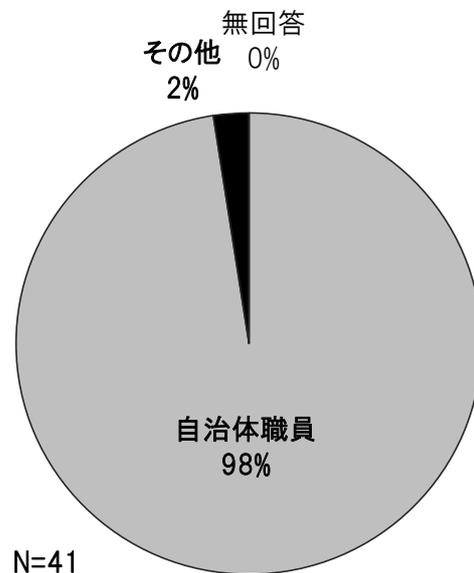
①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が98%、その他が2%であった。

図表 5-25 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	40	98%
その他	1	2%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



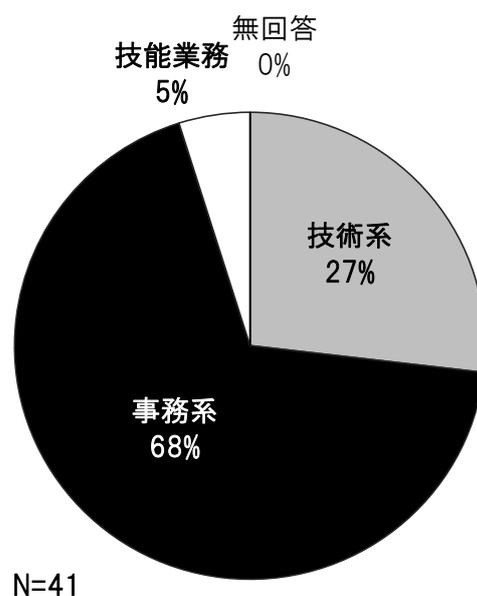
②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、68%が事務系、27%が技術系、5%が技能業務であった。

図表 5-26 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	11	27%
事務系	28	68%
技能業務	2	5%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



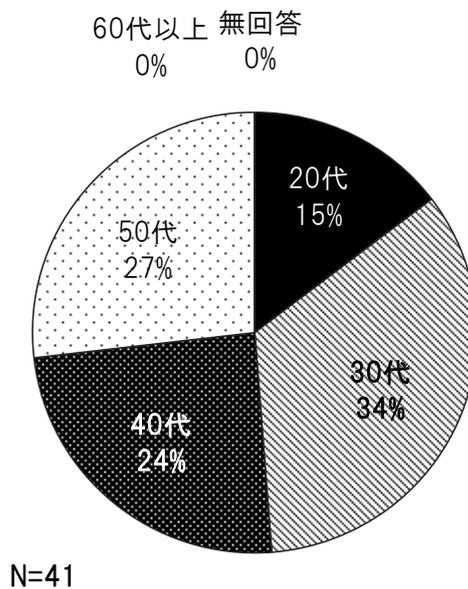
③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、30代が34%、次いで50代が27%、40代が24%、20代が15%であった。

図表 5-27 参加者の年代

参加者の年齢	回答数	回答率
10代	0	0%
20代	6	15%
30代	14	34%
40代	10	24%
50代	11	27%
60代以上	0	0%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



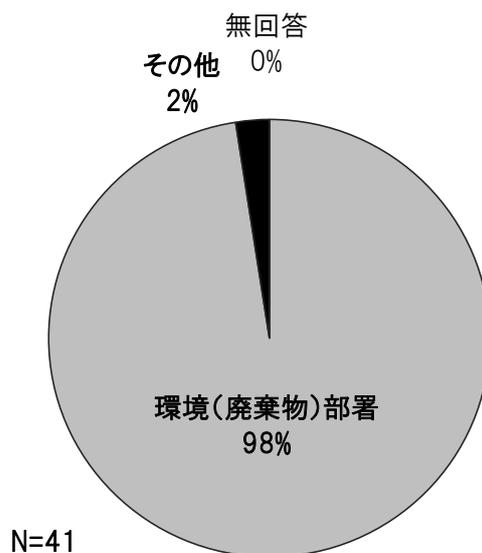
④参加者の所属部署

アンケート回答者の所属部署は、98%が環境（廃棄物）部署、2%がその他であった。

図表 5-28 参加者の現在の部署の所属年数

所属部署	回答数	回答率
環境（廃棄物）	40	98%
その他	1	2%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



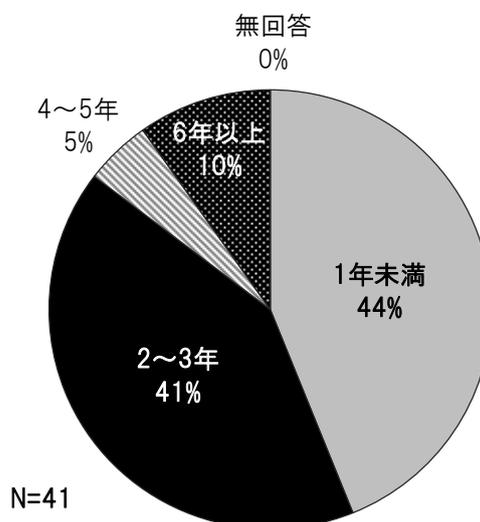
⑤参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、1年未満が44%、次いで2～3年が41%、6年以上が10%、4～5年が5%であった。

図表 5-29 参加者の現在の部署の所属年数

所属年数	回答数	回答率
1年未満	18	44%
2～3年	17	41%
4～5年	2	5%
6年以上	4	10%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑥廃棄物処理の対応に対する意識の変化

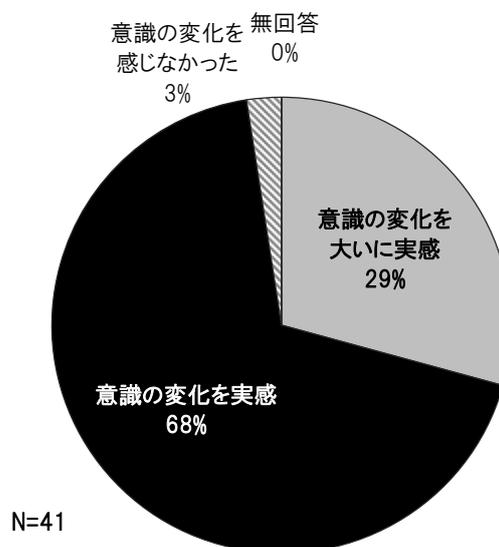
研修会参加前後の意識の変化は、研修会を受講し意識の変化を「実感」が68%、次いで「大いに実感」した回答が29%であった。

研修会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 5-30 集積所・仮置き場に係る選定や設置運営の必要性に対する意識の変化

項目	回答数	回答率
意識の変化を大いに実感	12	29%
意識の変化を実感	28	68%
意識の変化を感じなかった	1	2%
無回答	0	0%
合計	41	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑦各講演に対して参考になった事項など

図表 5-31 各講演に対して興味を持った、参考になった事項等

講演 1

番号	今回の研修会において参考になった事項など
1	講演 2 から参加のため無し
2	被災後の措置について、災害が起こってからではなく事前にある程度意思決定をする必要があること。
3	被災地に対してどのようなことに配慮して支援を行われていたのかがよく分かりました。
4	市町との連携が重要であることが参考になった。
5	仙台市は、大きな政令都市であり災害廃棄物の量も多かったと思われるが、短期間でうまく処理をされ、そのノウハウを他地域での災害支援に活用され、さらにブラッシュアップされていることが理解できました。
6	業者と連携が大切であり、運搬先の確保を多く必要であること
7	支援事業者や調整員について
8	現場を知らない職員が多いため発災時には積極的に支援を行い経験職員を増やし、自身の自治体での備えを進めたいと感じた。
9	災害支援の経験を積ませる方法等が参考になった
10	実際の現場の情報や体制の問題点
11	個別事例が豊富で勉強になった。地域によって収集状況が違うことを感じた。
12	実際の詳細な対応事例など
13	初動対応が遅れることで勝手仮置場が増えてしまうと処理に影響が出るので早急な対応が必要であると感じた
14	仙台市では、秋田での初動の遅れを踏まえ、東北地方環境事務所と協議し、東北地方での災害発生時には、事務所と共に、発災直後に先遣隊を出すことを平時から取り決めていることが参考になりました。県庁単位ではなく、市町村単位で環境省と平時からこうした災害派遣の取り決めをしているというのは、より経験が活かされるものではないかと思いました。
15	初動の重要性を大事にしていることが印象に残った。
16	平時の備えと初動対応の徹底。支援に行く前に被災地のごみ分別や処理方法を把握すること
17	直営職員の必要性を感じた。
18	支援の心構え
19	実際の災害現場での混乱の状況や、自治体職員としての優先順位が分かった
20	実例が大変参考になりました
21	調整員が重要な役割を担っていることや、受援者側の要望と支援者のミスマッチにより、支援が空振りに終わるとのことがあるため、そのあたりの調整等が難しい印象を受けた
22	調整する人を先に派遣し、ニーズを把握することと受け入れ態勢を整えてから支援に行く方が望ましい。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の短期入れ替わりが大変な点 ・激甚災害を経験した自治体とそうでない自治体での温度差がある点 ・受援自治体に平常時からの備えが必要である点
24	人手不足が深刻化する中で、被災自治体だけでなく国、県、地方自治体、民間などの連携が必要であり。限られた人材を活用していかないと、今後は災害廃棄物処理は益々困難になりそうです。
25	災害廃棄物の分別等の初動が遅れると段々と動きづらくなっていく
26	被災時におけるリアルな収集運搬の実態（車のミスマッチ、地元業者のプッシュ支援）を知ることができ、対応の難しさを改めて実感できました。 また、心構えや事前に準備すべきこと、所感でお話いただいた内容は特に念頭に置いておきたいと思います。
27	人材バンクの役割 仙台市の「プッシュ型の支援」についてお話を聞き、混乱している現場に先行して訪問することができるのは、仙台市がリーダー的な役割を担っているからでしょうか。統制をとる人材は早めの行動がその後の動きを決めるとは思いますが、応援自治体は逆に統制をとる人材がいないと現地での活動に混乱をきたします。人材バンクの方が先陣を切って状況把握をしてもらえることは、後々のトラブル回避にもなり、ありがたいです。

番号	今回の研修会において参考になった事項など
28	仙台市の経験談が大変参考になりました。又、人材バンク登録者が感じる問題点を丁寧に説明いただいたところが大変参考になりました。
29	仙台市が多くの自治体から支援を受け、処理を迅速に完了したことを踏まえ、当市も各地の災害時には各地の災害廃棄物処理に迅速に行動し、支援していきたいと思った。また、災害に備えて、収集運搬車両等を平時から点検等しておくことが大切と感じた。
30	収集運搬支援の心構えについて非常に参考になりました。
31	災害廃棄物発生時の人材バンクの活用手法
32	発災時に備え、受援体制を構築しておく必要性
33	県、市町村の上席、上長の考え方が全くなっていない。災害に関することについて、想定すらしていない現状です。もっと災害発生時の動きを理解させる場が欲しいです。
34	委託の必要性について改めて考えさせられた。
35	災害時の動きとして、事務方の動きであったり、指示系統、アドバイスの重要性等がわかった。
36	支援体制を事前にととのえておくこと。
37	派遣先での「調整役」の重要性を改めて実感しました。
38	講演2から参加のため無し
39	被災後の措置について、災害が起こってからではなく事前にある程度意思決定をする必要があること。
40	被災地に対してどのようなことに配慮して支援を行われていたのかがよく分かりました。
41	市町との連携が重要であることが参考になった。

講演 2

番号	今回の研修会において参考になった事項など
1	受援自治体と支援団体等との関係性
2	被災後の措置について、災害が起こってからではなく事前にある程度意思決定をする必要があること。
3	平時から備えておくことが必要であると分かりました。 都道府県と市町村の連携について質疑応答で答えておられたのが参考になりました。
4	あくまでも、意思決定は被災自治体に置いたうえで、その周辺の必要な支援を積極的にやっていくという基本体制の構築が重要と感じた。
5	実際の災害廃棄物処理の実情について、被災自治体、国、県、民間業者のやるべきことや協力のあり方等について、参考になりました。
6	体験してみないとわからないことが多いですが体験談を聞くことで人材バンクの必要性がわかりました
7	地元業者が自主的にどんどん進めていく事例
8	受援体制の構築を進めてはいるが実際の動きなどを理解している職員が少ないため話し合う場を設ける必要があると感じた。
9	国や被災自治体の役割等がわかりやすくまとめられていた。
10	各団体の特色や役割
11	非常時体制の構築 必要な役割を具体的に例示していただいたのは大変勉強になった。
12	地図活用事例、対応に苦慮した事例
13	本音で話が聞けて良かった。他自治体等との連携のしくみを構築していく必要があると感じた。
14	非常時体制において、課長級クラス以上の職員の役割が非常に重要であることが細かく説明され、参考になりました。災害廃棄物分野は、防災分野よりも存在感が薄いことは私もなんとなく実感しているところではありますので、管理職の人の発言や協力姿勢というののがかなり重要になってくるのではないかと思います。
15	受援側、支援側、業者等、それぞれの立場の説明をしていただけたので、非常に理解しやすかった。
16	他市町村の事例紹介。グーグルマップを活用したエリアごとの発生推計。
17	勝手仮置き場ができないよう迅速な対応が必要と思った。
18	規模によってどういった支援が必要か それぞれの役割（国や自治体）
19	国、県、自治体、応援者、民間事業者の役割分担が分かってきた
20	被災自治体が意思決定できるように支援、ということがよくわかりました
21	災害時には、各団体が勝手に行動を起こすこともあり、そのあたりのガバナンスを利かすことも重要であると感じた
22	少し遅れるだけで勝手仮置き場が設置される。速やかな支援が必要。産廃業者をどのようにコントロールすればよいか、平時の準備が必要。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定権者が判断できる環境をいかに整えられるのが重要である点。 ・市役所庁内において廃棄物部局の重要性をアピールしておくことが大事である点。 ・支援団体の本音や何が得意なのかという講演者様の見解。
24	民間との連携も必要であるが、自治体職員としては少し複雑な気持ちになった。
25	人材バンクで対応できる仕事は多岐にわたる。初動体制が遅れると民間等が勝手に進めはじめ、歯止めが利かなくなる。
26	発災時に実際に起こる事態がイメージしやすく、統括する立場の重要性がより理解できました。多種多様な主体が支援に訪れる中、それぞれの立場が自分の中であまり整理できていなかったのですが、各支援団体の役割と得意分野の話が非常に参考になりました。
27	民間事業者が先行して行動すると、自治体は事業者の言いなりになる（国の補助以外の事業も勝手に行われてしまう）⇒自治体が混乱している最中で、お任せできる…難しい問題とと思いました。
28	講演 1 と同様に、実体験に基づく説明が大変参考になりました。特に、支援する側が感じていること、受援者に主導してもらいたいことを率直に説明されたことが勉強になりました。
29	熊本市の他の自治体の支援経験をもとに、他自治体や民間団体、環境省によりどのような支援が行われているかについて、参考になった。また、それらを踏まえて、当市でも被災自治体と支援団体との連携における留意点について、平常時に行うべきことや、災害発生後に開始すべ

番号	今回の研修会において参考になった事項など
	きことについて検討する必要があると感じた。
30	非常時体制の準備（他自治体の受け入れ準備）が非常に参考になりました。
31	受け入れ体制の準備について
32	各種支援団体の役割や支援可能範囲が理解できた。情報共有のため行政システムのみではなく、民間が広く使えるシステムの利活用。
33	職員が遠方より通勤しているものが多いので、災害時に自治体活動ができないと考えられる。やはり自治体は近隣のものを採用すべきでは？
34	実際の災害対応を経験していないため、その役割分担を学ぶことができて良かった。
35	実務としての被災地での動き方等がとても参考になった。
36	意思決定はあくまでも被災自治体が行うべきという点。
37	貴重な情報の開示が本当に助かります。持ち帰り、担当部署にも共有させていただきます。
38	受援自治体と支援団体等との関係性
39	被災後の措置について、災害が起こってからではなく事前にある程度意思決定をする必要があること。
40	平時から備えておくことが必要であると分かりました。都道府県と市町村の連携について質疑応答で答えておられたのが参考になりました。
41	あくまでも、意思決定は被災自治体に置いたうえで、その周辺の必要な支援を積極的にやっていくという基本体制の構築が重要と感じた。

⑧研修会の感想など

図表 5-32 具体的に詳しく聞きたい事項、本日の感想等

番号	感想等
1	実体験に即した非常に有意義な講演内容でした。
2	途中からになりましたが体験談を聞いてよかったです。今後、自分にできることを記していきたいと思いました。ありがとうございました。
3	山間部等周りから隔絶される環境での対応
4	災害廃棄物に関する重要性を全職員（上層部も含む）が理解を深める必要がある
5	各自治体が普段から行っている災害廃棄物の啓発活動について具体例を紹介してほしいです。
6	それぞれの講演の中で紹介された ・ホワイトボードでの作業管理表 ・ローラー調査の詳細 ・グーグルマップの活用方法 ・優秀な仮置き場の運用方法 など、書式やマニュアルとして共有いただければ、非常に有意義だと思います。
7	期間限定で大丈夫なので、録画データを共有してもらえるとありがたいです。
8	災害廃棄物に対する意識や視点が大きく異なると感じた 実例の紹介が大変参考になった
9	実際の生の声が聴けて、有意義でした。それとともに、いざ被災した場合のことを考えると平時からの準備が非常に大事であり、解決に向けては多くの課題があることも認識した。
10	産廃業者をどのようにコントロールすればよいか、そのために平時の準備として考えておくこと。
11	災害廃棄物処理が非常に困難な事務である認識はありますが、激甚災害を経験していない立場からすると、講演の前に災害廃棄物の基礎的な流れを聞ける講演を初めに挟んでいただけると理解が捗るのではないかと感じました。
12	本日の研修会に参加させていただき、災害廃棄物処理について知識を深めることができました。次回もあれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。
13	大変参考になりました。ありがとうございました。
14	現地訪問をする機会をお願いしたい。上層部の認識が低すぎるので、どうすれば理解されるのでしょうか？
15	講演 1、2、内容に重なりがなく最後まで勉強になりました。

2.4 令和7年12月19日 課題別研修会 アンケート結果

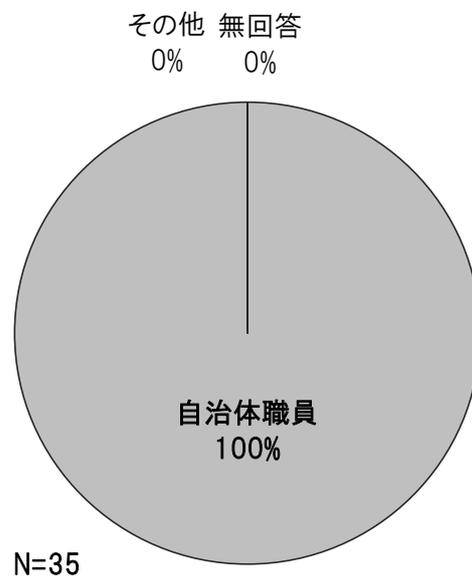
①参加者の所属

アンケート回答者は自治体職員が100%であった。

図表 5-33 参加者の所属

所属	回答数	回答率
自治体職員	35	100%
その他	0	0%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



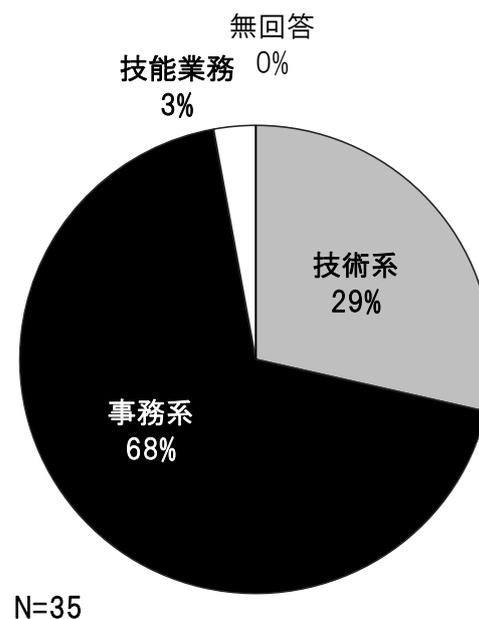
②参加者の職種

アンケート回答者の職種は、69%が事務系、29%が技術系、3%が技能業務であった。

図表 5-34 参加者の職種

職種	回答数	回答率
技術系	10	29%
事務系	24	69%
技能業務	1	3%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



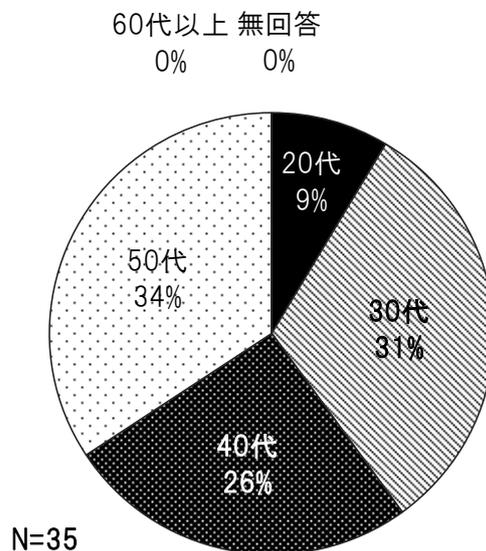
③参加者の年代

アンケート回答者の年齢は、50代が34%、次いで30代が31%であった。

図表 5-35 参加者の年代

参加者の年齢	回答数	回答率
10代	0	0%
20代	3	9%
30代	11	31%
40代	9	26%
50代	12	34%
60代以上	0	0%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



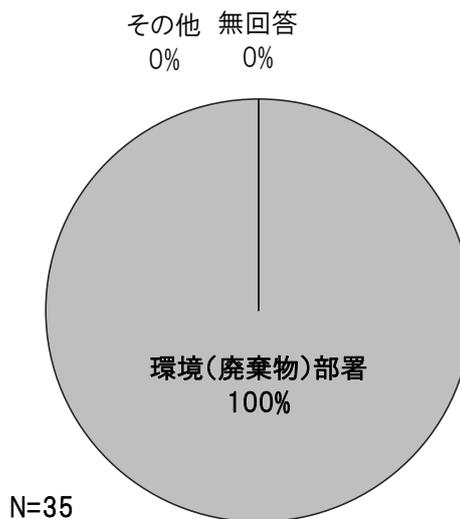
④参加者の所属部署

アンケート回答者の所属部署は、環境（廃棄物）部署が100%であった。

図表 5-36 参加者の現在の部署の所属年数

所属部署	回答数	回答率
環境（廃棄物）	35	100%
その他	0	0%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



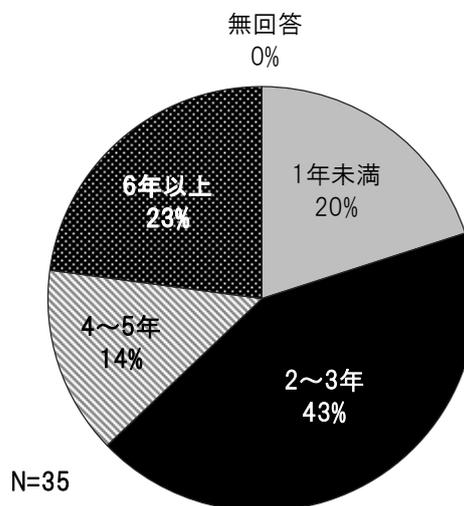
⑤参加者の現在の部署の所属年数

アンケート回答者の所属年数は、2～3年が43%、次いで6年以上が23%、1年未満が20%、4～5年が14%であった。

図表 5-37 参加者の現在の部署の所属年数

所属年数	回答数	回答率
1年未満	7	20%
2～3年	15	43%
4～5年	5	14%
6年以上	8	23%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑥廃棄物処理の対応に対する意識の変化

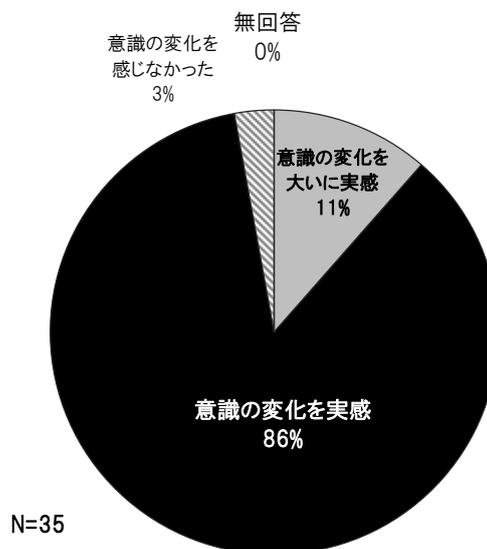
研修会参加前後の意識の変化は、研修会を受講し意識の変化を「実感」が86%、次いで「大いに実感」した回答が11%であった。

研修会を通じて災害廃棄物処理対策の事前の備えに対する意識の向上につながったと考えられる。

図表 5-38 集積所・仮置き場に係る選定や設置運営の必要性に対する意識の変化

項目	回答数	回答率
意識の変化を大いに実感	4	11%
意識の変化を実感	30	86%
意識の変化を感じなかった	1	3%
無回答	0	0%
合計	35	100%

注) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



⑦各講演に対して参考になった事項など

図表 5-39 各講演に対して興味を持った、参考になった事項等

講演 1

番号	今回の研修会において参考になった事項など
1	公費解体の件数や割合
2	対応の手順について理解できました
3	災害報告書の作成について、詳細な説明があり参考になりました。
4	公費解体について具体的な資料と説明があったため、有意義な講演でした。
5	自費解体混在などの諸課題があることを改めて認識できた
6	仮置場のレイアウトや処理フロー
7	仮置場の必要性について
8	自費解体後の廃棄物について断ることも可能とのこと。
9	発生量の算出と実際の発生量。指針の計算で概ね把握できるとの印象を受けました。解体ありきではなく、修理等での対応を増やすにはどうすればよいのか。
10	公費解体の手順、流れについて
11	公費解体の発注について
12	災害ごみの出し方に関する市民への周知チラシや仮置き場レイアウト、申請書類の具体例、発注方法など参考になった。
13	仮置き場の設置状況がわかり勉強になった。
14	途中参加のため、視聴できておりません。
15	以前のトラブルを糧として、輪島市の片付けゴミは自宅敷地内に置き、委託業者が回収するやり方は困難だと思い込んでいたので斬新だった。詳細を知りたいです。
16	災害報告書の様式を作成されていたこと。自動で計算されるセルもあったりと効率的に作業ができると感じた。
17	仮置場の公有地に占める割合が高く関係部局との平時からの協議が重要に感じました。県に災害報告書の雛形を整理してもらえると市町村としても対応をしやすいく感じました。
18	災害報告書の雛形を作成している点が参考になりました。県でも、「ブースターパック」というエクセルツールのなかに、すぐ報告書が作れるようなひな形を作成していますが、今回の講演内容をもとに、よりブラッシュアップできるのではないかと思います。
19	災害廃棄物の広域処理について
20	災害発生当初から公費解体の実施、ごみ処理までの一連の対応について細かく説明いただき大変参考になりました。また、災害報告書の書式についても参考になりました。
21	初歩的なことだと思うが、片付けごみでまず住民持ち込みか自宅の敷地に置いて自治体が回収するのかが決めることが大事だということ。
22	公費解体した建設廃棄物の取り扱いが一般廃棄物なのか産業廃棄物なのかずっと疑問でしたが、仮置場への搬入を断っていたとのことだったので、産業廃棄物の整理であるとわかり、よかったです。
23	仮置き場は、仮設住宅の候補地と被る可能性が高いということ。災害報告書の作成にあたって、様式を作成して市町村をサポートされていたこと。
24	発災当初の対応や片付けごみへの対応について
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発災当初の対応（避難所ごみ、生活ごみ、し尿のしより） ・ 自治体における片付けごみの回収（委託業者による回収） ・ 災害廃棄物の広域での処理
26	公費解体についての事項
27	処理機関が概ね2年から3年の複数年係る
28	災害発生時の前に廃棄物の仮置き場を検討しておく事
29	公費解体について
30	災害時に利用できる仮置場の確保について課内で検討すること、また、災害時における片付けごみ等を迅速に適正処理するために、必要に応じ、協定締結者等に協力要請するなどが大切であると感じた。災害廃棄物報告書のひな型の作成についても、今後検討する必要があると感じた。

番号	今回の研修会において参考になった事項など
31	仮置き場の設置等について
32	実体験も踏まえて、説明していただきわかりやすかったです。災害廃棄物報告書の件も知ることができて、良かったです。
33	想定より多くの公費解体が実施される実態などが解った

講演 2

番号	今回の研修会において参考になった事項など
1	共有者全員の許可がとれない場合の公費解体について
2	公費解体について具体的に理解できました
3	公費解体の実務について、参考になりました。
4	公費解体について具体的な資料と説明があったため、有意義な講演でした。
5	区分所有建築物などの課題があることを改めて認識できた
6	事業者の選定方法
7	公費解体実施の流れについて
8	避難所でのトイレの汚物の処理について
9	耐震化、空き家対策の重要性。仮置場確保の手順、公費解体の実務など参考になりました。
10	公費解体の手順について
11	収集運搬のパターンや対応フロー、処理の流れ、公費解体の手順など参考になった。
12	公費解体の具体的な流れがわかり勉強になった。
13	仮置場や公費解体など、他の研修でも聞いた内容を繰り返し聞くことで理解が深まったと感じる。
14	被災台帳の作成及び利用について詳細に説明していただき参考になった。
15	初動対応として避難所ごみが重要なことは承知していましたが、し尿処理体制を整えることも最優先事項であり、配慮しなければならない点が多くあることに現場写真を拝見して考えさせられました。
16	当該講演内容については、これまで何度か拝見させていただいたことがあるのですが、公費解体制度の細かいところ（宣誓書方式など）について改めておさらいすることができ、良かったです。
17	仮置場の利用方法と選定の検討
18	災害時に発生するごみの処理の流れ、委託方法について参考になりました。
19	避難所から排出される簡易トイレ等の汚物を可燃ごみとは別の袋に入れるよう指導して、積み替えの必要からごみ袋を破袋せずに運搬できるダンプ車や平ボディ車を利用すること。
20	公費解体した建設廃棄物の取り扱いが一般廃棄物なのか産業廃棄物なのかずっと疑問でしたが、産業廃棄物としたうえで、公費解体の発注する際に廃棄物処理費用も積算して公費負担する建付けであることがわかり、よかったです。
21	仮設トイレの設置とし尿の収集は関係者間での情報共有が重要であること。公費解体において活用できる被災者台帳をシステム化している自治体が非常に少ないこと。
22	片付けごみの排出場所と回収の流れについて
23	・公費解体、自費解体の考え方
24	仮置場設置。災害ごみの処理の流れ
25	ダンプ車の方が便利が良い
26	災害廃棄物の分別を徹底し処理できる間口を広げる。
27	避難所ごみの状況について
28	公費解体における手続きの流れを確認するために、公費解体マニュアル等を確認し、有事に備え準備すること。また、自費解体についても、自費解体の手引き等を参考にし、当市と所有者がトラブルにならないよう事前に準備することが大切であると感じた。
29	補助金の申請等について
30	公費解体の改定内容が良くわかり、良かった
31	被災者台帳の作成、共有が重要と感じた

⑧研修会の感想など

図表 5-40 具体的に詳しく聞きたい事項、本日の感想等

番号	感想等
1	実際仮置き場はどの程度確保すればよいのか。
2	災害廃棄物（公費解体の対象）となる基準について。
3	公費解体の要綱は事前に決めておいたほうがいいのでしょうか。それとも災害時に府県からひな形が出るのでしょうか？もし可能であれば、災害報告書の様式を提供していただけるとありがたいです。
4	仮置場の選定には周辺住民の反対もあろうかと思いますが同意を取るための工夫等があれば教えていただきたい。
5	公費解体制度については、環境省が手順などをまとめたマニュアルをいくつか作成しているため、申請体制を構築するうえでは市町村は迷わずに済むのかなとは思いますが、実際、私も去年1週間、公費解体申請の受付業務で手伝いに行ったことがあります。マニュアルではどうしても解決できないようなイレギュラーな質問を申請者（被災者）から受けることが多かったです。とくに、「公費解体で無事解体できたとしても、その後、もう一度この地元に戻ってきて店を再開することはできるのか、生活の再建はできるのか。地元の地盤に不安がある。」といった質問を猛烈な勢いでしてくる方が多く、町の担当者がとても困っていた姿をよく覚えています。被災市町村は、公費解体制度の枠内にとらわれず、被災地域の今後の土地の活用の在り方などについても方針をまとめていく必要があるのだなと思いました。こうした点について、当時の石川県内の各市町村がどのように対応をしていたのか、といった内容の講演を今後していただきたいです。
6	職員の勤務体制。勤務形態。仮眠等。
7	公費解体の対象外となる半壊未満の建物について、一般廃棄物なのか産業廃棄物なのか、災害廃棄物に該当するのかが知りたいと思いました。
8	・市所管処理施設（焼却炉・破碎処理）の稼働状況や復旧稼働までの期間、費用等 ・稼働できない要因（ライフラインの確保、プラントメーカーの対応、その他など）
9	ごみの収集体制など